

発熱等の風邪症状がある学生への対応フロー

○健康観察の際や授業参加中などに発熱等の風邪症状が現れた場合
→学生課職員が電話で症状を確認の上、隔離部屋に移動して待機するように指示する。



○学生課職員が保護者に連絡をとり、症状を伝えた上で、医療機関への受診等の対応について協議する。
→基本的に保護者に迎えに来てもらい、医療機関への受診を依頼する。
(県外出身者など、保護者の対応が困難な場合は学生課が対応する。)



○自宅療養又は学生寮の隔離部屋で療養させ、様子を見る
(学生には、毎朝の検温結果をポータルで報告を行うよう依頼する。)



○発熱や味覚・嗅覚の異常等の異変を感じた場合

- ・かかりつけ医がいる学生は、かかりつけ医へ事前に電話し、受診する。
- ・かかりつけ医がいない学生は、【発熱等相談センター】に電話し指示を受け、受診する
静岡県発熱等相談センター（年中無休 24 時間対応）
電話：050-5371-0561 FAX：054-281-7702

※PCR検査を受けることになった場合は速やかに学生課へ連絡する。(検査結果についても同様。)



○医師の判断等で検査の実施なく症状が軽快した場合
自宅待機の解除基準に沿って、帰寮する。
(在寮の場合は、隔離部屋から自室へ戻る。)
※発症後8日かつ症状消失後4日経過後



◎新型コロナウイルス感染が判明した場合

- ・学長は、直ちに評議会等を開催の上、学校保健安全法第20条に基づく臨時休業、遠隔授業の実施(対面併用含む)等の対応方針を決定し、準備ができ次第速やかに実施する。
- ・学長は、その後、保健所の調査により濃厚接触者とされた学生について、学校保健安全法第19条に基づく出席停止の措置をとる。
- ・学長は、濃厚接触者が全て陰性となった時点で評議会等を開催の上、平常どおりの運営に移行する。

<参考> 学校保健安全法

第19条 校長は、感染症にかかっており、かかっている疑いがあり、又はかかるおそれのある児童生徒等があるときは、政令で定めるところにより、出席を停止させることができる。

第20条 学校の設置者は、感染症の予防上必要があるときは、臨時に、学校の全部又は一部の休業を行うことができる。

新型コロナウイルス感染が判明した場合の学生寮における対応

(学生課)

(要旨)

新型コロナウイルスへの対応については、「発熱等の風邪症状がある学生への対応フロー」に基づき実施しているが、感染が判明した場合の学生寮における対応をあらかじめ想定し、感染時の対応を円滑におこなうものとする。

1 感染者等への対応

(1)感染者本人への対応

- ・発熱、風邪症状のある学生は別室に隔離後、保護者の迎えにより帰省させ自宅で医療機関の受診・療養等への対応を依頼する。PCR陽性となった場合は、速やかに学生課へ連絡し、保健所等の指示に従う。
- ・帰省が困難な者（保護者の迎えまで期間を要する者を含む）は別室に隔離し、療養させる。症状が軽快しない場合は校医もしくは静岡県発熱等受診相談センターの指示を受け、医療機関を受診させる。その際、陽性が判明した場合は、保健所の指示に従う。

(2)PCRで陰性が確認された濃厚接触者への対応

- ・保健所が、陽性者へ聞き取りを行い、濃厚接触者を特定するまでの間、授業は休講とし寮生は寮待機とする。
- ・濃厚接触者と特定された者は、保護者の迎えにより帰省させ、保健所から示された期間を自宅待機とする。
- ・帰省が困難な者は、保健所から示された期間は寮内で隔離し、経過観察の対応を行うが、原則としてできるだけ早く迎えに来てもらい自宅待機をお願いする。

(3)その他の学生への対応

- ・濃厚接触者の特定後、新型コロナウイルス対策委員会を開催し授業再開日を決定する。
- ・通常の寮生活を再開する。

2 保護者への対応

- ・感染者及び濃厚接触者の保護者へは、学生課が直接連絡を取り、状況を説明し迎えを依頼する。

3 消毒等の対応(居室、共用部分、食堂等)

「学生寮における対策 共用部分の消毒」による消毒に加え、陽性者、濃厚接触者居室の消毒を行う。

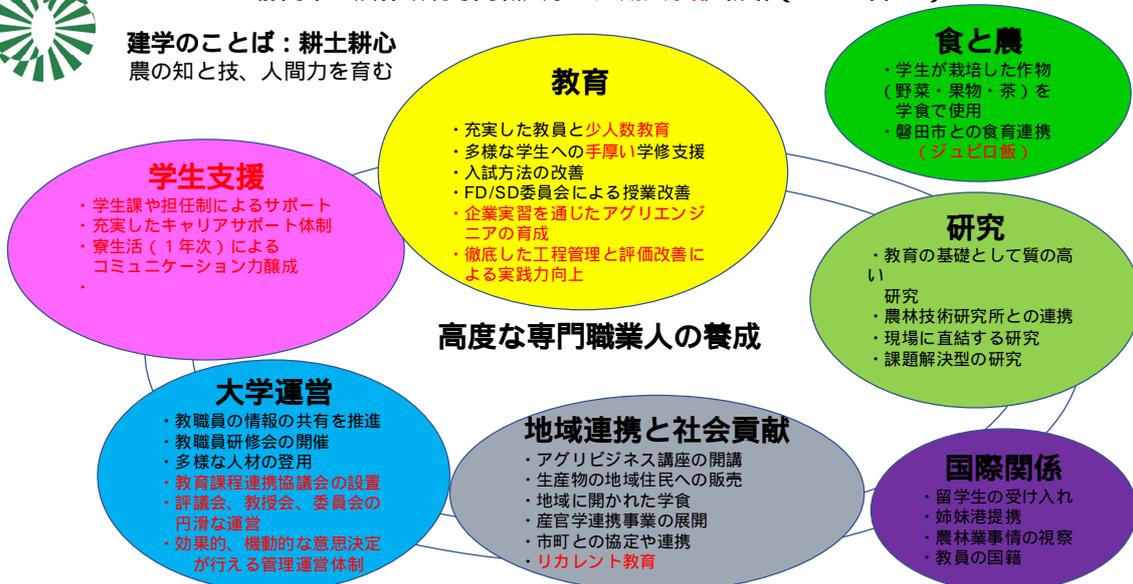
4 その他(基本的な対応フロー等は以下による)

- ・「発熱等の風邪症状がある学生への対応フロー」（令和4年1月13日）（別添）
- ・「検査の実施なく症状が軽快した場合の対応について」（令和4年2月24日）（別添）



静岡県立農林環境専門職大学・短期大学部 戦略（たたき台 V2）

建学のことは：耕土耕心
農の知と技、人間力を育む



静岡県立農林環境専門職大学・短期大学部ビジョン
（たたき台 V2）

～Agrifore Mind 2030～

キーワードは
高度な実践力と豊かな創造力 + 人間力

静岡県（ふじのくに）は、国土の中央にあり大消費地にも近い豊かな農業県です。

緑あふれる森のような学び舎で、環境・伝統・文化などを学び人間力をアップしていきます。また、生命と暮らしを支える農業に、「経営という視点」を強化します。高い生産技術と経営マインドを持った、農業の生産や経営のプロフェッショナルとして、地域社会を支えリーダーとして活躍できる人材を養成します。



静岡県立農林環境専門職大学・短期大学部

建学のことば

(たたき台 V2)

『 耕土耕心 』

大地を耕すことは、
自らの心を
耕すことである。



本学の前身母体である静岡県立農林大学校（明治33年開学）の理念を引き継ぎ、知（ち）・技（わざ）・人間力（こころ）を耕し、農山村の地域社会を支え中核となる人材を育てます。

年度 2022年度

アンケートタイトル 2022年度授業評価アンケート

アンケート説明 本学では、より質の高い教育を行うことを目的に、直接学生の声を聴き、授業に反映させることの出来る「授業評価アンケート」を各科目で実施しています。このアンケートの回答内容があなたの成績評価に影響することは一切ありません。また、各担当教員には、集計した結果だけが報告されますので、回答者が特定されることはありません。

学生の皆様のご意見が、今後の授業内容の改善につながりますので、率直かつ責任を持った回答をお願いします。

F D ・ S D 委員会

設問内容

- 1 あなた自身について、あなたは、この授業に意欲的に取り組みましたか。
- 2 あなた自身について、この授業で、新たな知識や技能、考え方などを身につけることが出来ましたか。
- 3 授業の内容や方法について、授業内容はシラバスに沿ったものでしたか。
- 4 授業の内容や方法について、授業の教え方や話し方は、わかりやすかったですか。
- 5 授業の内容や方法について、教科書やプリント、画像等が適切に用いられていましたか。
- 6 授業の内容や方法について、授業の難易度は適切でしたか。
- 7 授業の内容や方法について、総合的にみてこの授業に満足していますか。
- 8 受講してよかった点を、具体的に記入してください。
- 9 要望や改善点等があれば、具体的に記入ください。

	講義コード	講義名称	受講者数	回答者数	回答率	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	
前期	1	UAE21602J1	環境保全型農林業論	25	10	40.00%	4	4.1	4.1	3.9	4.3	2.5	4
	2	UAE31314J1	農業気象学	10	8	80.00%	4.38	4.75	4.75	4	4.5	2.63	4.25
	3	UAE31603J1	農林業のための先端技術	25	10	40.00%	3.2	3.7	4.3	3.4	4.1	1.9	3.1
	4	UAP24601J1	飼料総論	4	4	100.00%	4.75	5	5	5	4	2.75	5
	5	UAP24602J1	家畜生理解剖学	4	4	100.00%	4.75	5	4.75	4.75	5	2.5	4.5
	6	UAP24603J1	家畜飼養学	4	4	100.00%	4.75	5	4.5	4	3.75	2	4.75
	7	UAP34607J1	畜産法規	4	2	50.00%	2.5	4	2.5	4	3	2.5	3
	8	UAT01402J1	簿記基礎	23	19	82.61%	4.68	4.53	4.58	4.47	4.26	2.58	4.53
	9	UAT21407J1	財務会計	26	18	69.23%	4.33	4.5	4.22	4.28	4.56	3.06	4.39
	10	UAT31410J1	管理会計	25	10	40.00%	4.4	4.6	4.5	4.6	4.7	3.2	4.4
	11	UBP22704J1	圃場実習(栽培)	19	14	73.68%	4.71	4.64	4.57	4.29	4.5	3.36	4.57
	12	UBP23705J1	演習林実習	3	3	100.00%	4	4.67	4.67	4.67	3.67	3	5
	13	UBP24706J1	圃場実習(畜産)	4	4	100.00%	5	5	4.75	5	4.75	3.5	5
	14	UBS31702J1	GAP演習	26	23	88.46%	4.22	4.43	4.57	4.52	4.52	3.17	4.35
	15	UCS11202J1	コミュニケーション論	26	19	73.08%	3.95	4.21	4.53	4.05	4.63	3	4.32
	16	UEL11203J1	英語	25	18	72.00%	4.06	4	4.56	4.17	4.56	3.17	4.33
	17	UEL31206J1	英語	3	1	33.33%	5	5	5	5	5	3	5
	18	UEL41207J1	英語	2	1	50.00%	4	4	5	5	5	2	5
	19	UES31807J1	農村景域論	25	10	40.00%	3.7	3.6	4	4.2	4	3.1	3.5
	20	UET11102J1	経済学概論	26	18	69.23%	4.5	4.61	4.78	4.78	4.06	3.06	4.56
	21	UFA11301J1	農学概論	26	16	61.54%	4.5	4.5	4.81	4.44	4.63	3.19	4.38
	22	UFA21303J1	県内農林業事情	22	17	77.27%	4.47	4.65	4.71	4.59	4.71	3.06	4.59
	23	UFA41317J1	海外農林業事情	2	0	0.00%							
	24	UFB01306J1	農林業のための生物学	4	0	0.00%							
	25	UFC01307J1	農林業のための化学	11	9	81.82%	4.44	5	4.56	5	3.78	3	4.89
	26	UFM01305J1	農林業のための基礎数学	4	2	50.00%	4.5	4.5	5	4	4.5	1.5	4
	27	UFO11501J1	食品科学	4	3	75.00%	4.67	5	5	4.67	5	2.33	4.67
	28	UFO31505J1	食品流通論	20	8	40.00%	4.25	4.5	4.38	4.5	3.63	2.88	4.5
	29	UFS23601J1	森林計画・政策論	3	3	100.00%	4.67	4.67	5	4.67	4.67	2.67	4.67
	30	UFS23602J1	造林学	3	3	100.00%	5	5	4.67	4.67	5	3	4.67
	31	UFS23603J1	森林土木学	3	3	100.00%	4.67	4.67	4.67	4.67	4.67	2.67	4.67
	32	UHG11108J1	歴史学概論	10	8	80.00%	4.88	4.75	5	4.38	4.63	3	4.75
	33	UHS31508J1	収穫後生理学	6	0	0.00%							
	34	UHS32607J1	園芸学各論	3	0	0.00%							
	35	UMA11401J1	農林業経営学	26	16	61.54%	4	4.44	4.69	3.44	4.5	2.06	4.06
	36	UMA11403J1	経営管理論	26	15	57.69%	4.4	4.6	4.47	4.07	4.87	2.73	4.2
	37	UMA21406J1	経営戦略	26	19	73.08%	4.05	4.37	4.58	3.79	4.11	2.32	4.05
	38	UMA31504J1	販売管理実習	25	12	48.00%	4.58	4.58	4.67	4.64	4.55	3.09	4.73
	39	UMB21304J1	分子生物学	12	6	50.00%	4.33	4.33	4.5	4.67	4.67	3	4.33
	40	UPE31316J1	技術者倫理	25	10	40.00%	3.9	4	4.3	3.9	4.2	2.8	4
	41	UPP22603J1	植物病理学	19	17	89.47%	4.59	4.71	4.53	4.29	4.59	2.71	4.56
	42	UPP22605J1	応用昆虫学	19	15	78.95%	4.27	4.47	4.33	3.93	4.4	2.27	4.27
	43	UPR31506J1	食品加工実習	20	10	50.00%	4.1	4.3	4.5	4.4	4.2	3.1	4.2

44	UPR33507J1	木材加工実習	5	2	40.00%	4	4	4.5	4.5	4.5	3	4
45	UPR61112J1	茶道	6	2	33.33%	5	5	4.5	5	4.5	3	5
46	UPR61113J1	華道	4	2	50.00%	4	4.5	5	4.5	4.5	3	5
47	UPS22602J1	土壌肥料・植物栄養学	19	14	73.68%	4.5	4.64	4.57	4.43	4.5	2.5	4.5
48	URE11801J1	農山村田園地域公共学	26	15	57.69%	4.33	4.53	4.07	4.53	4.87	3	4.4
49	URE31808J1	在来作物学	25	10	40.00%	3.9	4.4	4.4	4.3	4.1	3	4.2
50	URE31809J1	グリーン・ツーリズム論	25	10	40.00%	4	3.9	4.1	3.7	4.4	3.2	3.8
51	UTI111103J1	情報処理基礎	26	17	65.38%	4.65	4.53	4.71	3.71	4.71	2.41	4.47

前期平均 764 464 61.10% 4.3 4.5 4.6 4.4 4.4 2.8 4.4

後期

52	UAE11308J	環境と農林業	26	17	65.38%	4.12	4.71	4.65	4.12	4.41	2.29	4.35
53	UAG11405J	フードシステム論	15	10	66.67%	4.6	5	5	4.8	5	2.6	5
54	UAP24604J	家畜育種繁殖学	4	4	100.00%	4.75	4.75	4.75	5	4.75	2.25	4.75
55	UAP24606J	家畜衛生学	4	3	75.00%	2.67	2.67	1	2.33	3	3.67	1.33
56	UAP34605J	人工授精論	4	3	75.00%	5	5	5	5	5	2.33	5
57	UAT01404J	簿記応用	16	12	75.00%	4.33	4.42	4.67	4.67	4.25	2.5	4.5
58	UBP11701J	総合実習	26	16	61.54%	4.88	4.81	4.38	4.81	4.56	3.25	4.81
59	UCP22601J	作物学	19	11	57.89%	4.09	4.27	4	3.27	4.09	2.55	3.82
60	UEL21204J	英語	25	15	60.00%	3.6	4	4.6	4.2	4.27	2.73	4
61	UFA11302J	農林業政策	9	7	77.78%	4.33	4.71	4.86	4.14	4.71	2	4.29
62	UFA11311J	農林業史	2	1	50.00%	5	5	5	5	5	3	5
63	UFA11601J	農林業生産理論	26	26	100.00%	4.42	4.77	4.81	4.46	4.46	2.96	4.6
64	UFB31309J	生命科学	12	10	83.33%	4.7	4.6	4.8	4.3	4.6	2.7	4.8
65	UFC01503J	農と食の健康論	1	0	0.00%							
66	UGB22606J	植物遺伝育種学概論	2	2	100.00%	5	4.5	5	5	4.5	3.5	5
67	UGE01313J	農林業のための地学	6	3	50.00%	5	4.67	4.33	4	5	2.33	5
68	UHS22604J	園芸学	19	10	52.63%	4.5	4.3	4.5	4.2	4.1	2.5	4.2
69	UIL31310J	野生鳥獣管理・利用論	20	18	90.00%	4.39	4.78	4.78	4.5	4.67	2.94	4.72
70	ULG11110J	文学概論	9	4	44.44%	4.25	4.75	4.75	4.75	4.75	2.75	4.75
71	UMA21408J	マーケティング論	26	18	69.23%	4.44	4.5	4.5	4.44	4.33	3	4.5
72	UMA31409J	労務管理	26	15	57.69%	4.27	4.4	4.33	3.87	4.13	2.2	4.27
73	UMA31412J	人材マネジメント	25	8	32.00%	4.25	4.38	3.88	4.25	4.25	2.75	4.13
74	UMA41414J	農と食の起業論	3	1	33.33%	4	5	5	4	5	2	4
75	UMA41509J	6次産業化実践論	25	20	80.00%	4.1	4.2	4.45	4.17	4.3	3.4	4.15
76	UMP01312J	農林業のための物理学	3	2	66.67%	4	4	2	3	3	3	3
77	UNF41413J	知的財産権	3	1	33.33%	4	5	5	5	5	3	5
78	UPR32707J	生産マネジメント実習（栽培）	19	10	52.63%	4.6	4.6	4.2	4.4	4.4	3.2	4.2
79	UPR33708J	生産マネジメント実習（林業）	3	2	66.67%	5	5	5	4.5	5	3	4.5
80	UPR34709J	生産マネジメント実習（畜産）	4	3	75.00%	4.67	4.67	4.67	4.33	4.67	3.33	4.33
81	UPR41714J	企業実習	25	7	28.00%	5	5	4.57	4.71	3.86	3	4.71
82	UPR42710J	生産マネジメント実習（栽培）	14	1	7.14%	4	5	4	5	4	3	4
83	UPR43711J	生産マネジメント実習（林業）	5	1	20.00%	5	5	5	5	5	3	5
84	UPR44712J	生産マネジメント実習（畜産）	6	5	83.33%	4	4	2.6	3.8	4	3.4	3.8
85	URE11802J	農村社会論	26	17	65.38%	4.53	4.65	4.65	4.53	4.76	3	4.47
86	URE31804J	食文化論	26	15	57.69%	3.8	4.2	4.4	3.93	4.47	3	3.6
87	URE31806J	医福食農連携論	26	12	46.15%	4	4.17	4.25	3.75	3.83	2.67	4
88	URE31810J	コミュニティビジネス論	25	7	28.00%	2.86	3.14	4	3.14	2.57	2.86	3.14
89	USC11101J	静岡学	27	22	81.48%	4.68	4.73	4.86	4.5	4.45	2.86	4.59
90	USE31805J	農山村デザイン演習	26	9	34.62%	4.22	4.33	4.33	4.22	4.22	3.11	4.22
91	USP21201J	保健体育	26	18	69.23%	4.67	4.5	4.78	4.56	4.06	3.67	4.5
92	USP31205J	保健体育	18	8	44.44%	4.5	4	4.38	4.38	4.38	3.38	4.5
93	UTI21107J	統計学	25	14	56.00%	4.36	4.79	4.5	4.29	4.5	2.36	4.29
94	UTI21109J	情報処理応用	26	14	53.85%	4.14	4	4.36	3.21	4	2.36	3.86
95	UWS23502J	木材利用・流通論	3	2	66.67%	4.5	4.5	4.5	4	4	3	4
96	UWS23604J	木質科学概論	3	1	33.33%	5	5	4	5	4	3	4
97	UWS23605J	木材生産システム	3	1	33.33%	5	5	4	4	4	3	4

後期平均 0 692 882.61% 0.578 4.4 4.5 4.4 4.3 4.3 2.9 4.3

前期平均 0.611 4.3 4.5 4.6 4.4 4.4 2.8 4.4

年間平均 4.719 2.5 4.4 4.5 4.4 4.4 3.6 3.6

設問8 受講してよかった点を、具体的に記入してください。

情報処理基礎(1年)	
	Excelが高校で習ってから間があいて忘れかけていたのもう一度やる事が出来てよかった。
	受講内容に高校で学んだExcelやWord、PowerPointの使い方の復習や新しく知った機能や技術があったので、よかったと思う。
	パソコンの技術が全くありませんでしたが、受講したことで簡単な作業は身に着けることが出来たので良かったです。また、わからないことがあったら言ってくださいなどと言ってくださるので質問しやすかったです。
	ExcelやWord、PowerPointなど将来使える基本的な知識が身に付けられたと思う。講義的な感じでなく実践的な感じだから工程が覚えやすかった。毎回の授業資料が詳細まで書かれていてそれを見れば復習もできたり、とても分かりやすかった。
	WordやExcelの使い方自分で自分が知らなかったことまで知ることができてよかったです。スピードが速くてついていけない時もありましたが、先生に聞いたらすぐに助けてくださってやり遂げることができました。
	自分で文章やグラフ、表を作れるようになるのは将来の役に立つと感じた点。
	高校の時とは違うやり方の計算や表の作り方を学ぶことができたこと。
	WordやPowerPoint、Excelの基本的な使い方を身に付けることが出来たので良かったです。
	授業について行けなくても、teamsにレジュメが投稿されているため、いつでも確認できるのはいいと思った。
簿記基礎(1年)	
	「仕訳」ができるようになった点 基礎的な簿記知識と簿記三級の資料をもらえたこと。
	プロジェクターを使った仕訳や精算表の授業が良かったと感じました。また、プロジェクター内での色ペンによる重要な点をマークしてくださったおかげで、わかりやすく見落としにくい授業だったと思います。
	簿記はすごく難しいものだと思っていたけどやればできることを学べた点。
	簿記の演習をプリントでたくさん行えたこと。特に仕分けが苦手なので、演習プリントをたくさん用意してくださったのはありがたかった。
	小テストを返却するときに、一人一人に教えて下さったり、アドバイスを下さったりしたところがよかった。
	簿記の基礎分野について学ぶことが出来て良かったです。また、先生の声ははっきりとした声であったのでとても聞こえやすかったと思います。個人的に問題を解く時間を与えてくれた際には、先生が席をまわって、分からない所を教えてください、理解度がどれくらいかを確認してもらえらる点が良かったと感じました。
	解説が丁寧で、私たちが解いている途中に解説、回答を完成させてくれていたので授業がスムーズに感じられた。 練習問題のプリントをたくさん配ってくれたので家庭学習をするときに教科書以外の問題でたくさん練習ができてよかった。 授業内で覚えなければならないところを明確に示してくれてわかりやすかった。言葉をわかりやすく、難しい言葉を使わないでいてくれて、簿記を初めて習う私でも理解できたり、わかることで勉強意欲が湧いた。
	プリントをたくさん用意してくださったため試験対策や、授業外での勉強がやりやすかったです。 用意して下さったやつ問題の難易度が優しくなれたため、モチベーションを保てました。 先生の雰囲気も良く、授業も聞き取りやすくプロジェクターも使っていて見やすかったです。
	簿記という存在の説明から、それにかかわるもの関係やその理由のほとんどをわかりやすく簡潔に説明していただいた点。
	私は簿記の3級の検定を受けようと思いこの講義を受講したため、対策のプリントを多くいただけて良かったです。また、高校の時には用語の意味を詳しくは学ばなかったため、この講義で学ぶことができて良かったです。
経済学概論(1年)	
	経済学の理論を学べた
	経済学についての基礎知識を身につけることができた。例えばアイスやお菓子などで分かりやすかった。 先生の具体例の出し方がとても面白かったことが良かったです。
	高校で学んだ政治経済をより発展させた内容を学ぶことができたこと。理論の話ではあるが、経済の仕組みを知ることができてよかった。
	需要と供給の基本知識を身に付けることが出来たので良かったです。ミクロ経済学とマクロ経済学の重要な所をピックアップして教えてくださったので分かりやすかったと思いました。また、偶数回の小テストにより、自分の理解度がどれくらいかを認識することが出来ました。
	具体例や、みんなも感じることを基準に話してくれたのでとてもわかりやすかったし、聞いていて楽しかった。話し方も癖がなくはっきりしていてスピードも聞き取りやすかった。楽しそうに話すから私も楽しく取り組みやすかった。 言葉の他に、図が多くてよかった。私は板書を写していたが、先生が描いた通りの順序で図を描いたらどのような流れができるのかがわかりやすかったため教科書の図を見るより理解が深まったと思う。教科書を使う機会自体は少ないように感じたけど、その方が良い。
	たくさん具体例を出しながらの説明で理解がしやすかったです。 先生の話聞きながらメモする授業でしたが、先生の声がずっと大きめだったので、眠くなりにくかったです。
	経済学に興味があったため、それを学べてよかった。
	農業だけではなく経済のことも学ぶことで、将来のためになる授業でした。
	図を多く用いていたので理解しやすかった。
	経済の仕組みや取引の考え方の一部を学べた点
コミュニケーション論(1年)	
	コミュニケーションの利点と活用法について考えるきっかけになった
	コミュニケーションについての知識を広げることが出来た。
	人類の進化と言語の発達といった考古学からのアプローチや具体例を頻出したわかりやすい授業がとても良かったと感じました。
	デマも大事なコミュニケーションだということを知ることができたこと。 コミュニケーションについて、この授業ではじめて詳しく学ぶことができたこと。特にデマや嘘に少し興味があったため、受講できてよかったと思う。
	コミュニケーションの役割や仕組みなど、様々な観点から話していただいたので興味深かったです。また、実際私が経験したことと似たような話も時々出てきたので非常に役に立ちました。この時はこのようにしたらいいなどと後に考察することが出来たので良かったです。プリントも線が引いてあったりしたので分かりやすかったです。
	今まで表面上の会話やジェスチャーだけがコミュニケーションだと考えている部分があったが、その言葉の内側や話し方、言葉の選び方、言語の歴史などコミュニケーションについて初めて様々な視点から考えられてとても面白かった。 先生の話す内容や引用する資料が適切だったのと、重要な点に線が引いてあってどこを読んでいるか見失わなかったし、順番通りに説明してくれたので自分の中で整理しながら聞くことができた。質問があった場合、授業の最初に質問文と併せて回答もしてくれた点もよかった。
	普段の私生活に関わることで今まで考えていなかった考え方などを知ることができて面白かったです。
	コミュニケーションについてさまざまな角度から迫っていて、新たな考え方に会えた点。
	人間のコミュニケーションが与える影響などについて学べたこと。

	コミュニケーションの時代ごとの移り変わりなどしれて勉強になりました。
	日常的に無意識でやっていることや人とコミュニケーションをとる上で重要になることを学べたこと。
英語 (1年)	
	英語の単語や文法だけでなく、その国の文化まで学べた点
	英語でのPowerPointを使用したプレゼンテーションが新鮮だった
	具体的で実践的な英語を学ぶことが出来ました。
	授業で学習した内容を、さらに動画で具体的に理解する手法がとてよかったです。
	実践的な旅行英語を学ぶことが出来た点。
	SDGsの詳細を英語で知ることができたこと。 英語のプレゼンテーションができたこと。
	youtubeやインターネットサイトをたくさん使用していたことで、その時に学んでいることを簡単にイメージでき、内容がすんなり頭に入ってきたと感じる点。
	先生の声はハキハキしていたので良かったです。また、英語の勉強だけでなく、SDGsのことも学ぶことが出来て楽しかったと思いました。色々な国の動画も流れてくまだったので海外旅行気分になりました。14回目にやった英語のプレゼンは人前で話すことが苦手な私がいつもより頑張って話せたので良い経験となりました。
	私たちが問題を解いている最中に回答、解説を完成させてくれていたので授業がスムーズに感じられた。その解説も答えだけでなくなぜそうなるかの理由やポイントを押さえながらやってくれたので覚えるだけじゃなく学ぶことができたと思う。 練習問題のプリントや授業で使ったプリントをたくさん配布してくれたので家庭学習の時に勉強の材料に困らなかった。 簿記を初めてやって、最初は何もできなかったのにだんだんわかってきて問題も解けるようになったのが楽しかった。
	海外の映像を見たり、旅行先で使える英語について学べて面白かったです。 隣の人と英語の文の読み合いをすることや、音読があって発音の練習ができてよかったです。
	一人一人がプレゼンを作ることで、より授業内容を理解できた点。
	英語が苦手だったんですが、ギリギリについて行くことができ、同時にSDGsも学ぶことができ、面白かったです。
	授業の途中で動画を挟んでくれたので、2回連続の授業でも集中が途切れずに出来た。
	SDGsに関しての世界の状況を英語で学んだことで、英語の表現、SDGsの現状、課題を知ることができた。
農学概論(1年)	
	農業の全体についての幅広い知識を得ることが出来た。コース選択にも役立つ授業だった。
	農林業の概要を学ぶことができたこと。農業を専門に学ぶのは初めてなので、授業を聞くことで、これから学ぶことの概要を知ることができてよかった。
	様々な先生が来て、色々な分野の講義を聞いたことが良かったです。栽培や畜産、林業に加え生物分野の話もあり、面白かったと思いました。また、授業後に小テストがあるので、いつもより集中して聞くことが出来ました。
	花、野菜、果樹、林業、畜産などについて今まで知らなかった知識をあることができて面白かったです。他の授業でも出た単語や事柄などが出た時は復習にもなり、記憶に残りやすかったです。
	興味のある林業以外に、農業や畜産の知識を得ることができ、自分の視野を広げられた点。また、データが豊富でわかりやすかった。
	林業や畜産、栽培についてなど広く学べたこと。
	栽培や果樹、畜産、林業の知らなかった知識を学ぶことができ、選択コースを考えさせられる授業でした。
	農業についてほぼ知らなくても、概要を理解出来たため、授業名通りで良かった。
県内農林業事情(1年)	
	様々な分野の良い点や悪い点を学び、分野のくくりを超えた農林業が出来ないかと考えるきっかけになった
	静岡県内の農業の現状を知ることができた。他県との比較がありより詳しく知れた。現状を知ること将来についても考えることが出来る。
	静岡県の農林業を全く知らなかったので、入学してすぐに学ぶことができてよかった。
	県内の農林業について詳しく知る機会がなかったので、この授業で知れたから、
	3回ごとに色々な先生が来ていただいて、様々な分野の説明をしてくださったので良かったです。特に畜産と林業分野は馴染みのない分野であり、私の知らなかったことを沢山学ぶことが出来たと思います。
	農学概論で学んだことを静岡で細かく知ることができて静岡県民でも知らなかったことを学ぶことができて面白かったです。 クラスの人の地元の野菜の発表があり、プレゼンの練習になり良いと思いました。
	県内の事情でも特に県内の経営体に興味があり、そのような話が聞くので受講して良かったと感じています。
	静岡県内のみということで、県外から来た私は知らないことだらけで、新鮮でした。
	静岡で経営すると思ったら...と考えながら受講するとイメージが広がって現実味が出てきたと感じるから。
	自分でも調べきれいいなかったことを教えてくださっただけでなく、どうしてそうなるのか、それをするとどうなるのかまで、詳しく話してくださったので非常に参考になった。
	県外と比較した内容も出てきたので県外との繋がりや日本全体における位置などを知ることが出来た。
	実際の経営体を例に出しての説明がとて分かりやすかった。授業のテンポも良く、聞いていて楽しめました。
農林業経営学(1年)	
	今の時代において、農林業は単純な作業だけをする農業ではやっていけないことが分かった。
	農業経営について本格的な知識が分かった。事例もいくつかあり、経営について考えることが出来た。
	ケースメソッドを導入した授業がとてよかったです。
	ジャーナリストの話が聞けたこと。ジャーナリスト視点の話は直接聞いたことなかったので、興味深かった。畜産の話のみだったのが少々残念だった。
	実際に農林業経営を自分がすることになったらこのように考えていくんだと分かり、経営をするときのイメージがついた点。
	農林業の経営に関する基本的なことを学ぶことが出来たので良かったです。単体表を埋める問題が少し難しかったのですが、先生が丁寧に教えてくださったので助かりました。また、授業後の小テストの解説を次回の授業でしてくださるのでありがたかったです。
	重要なところを明確にしてくれたのが良かった。授業+小テストで理解が深まったように感じる。
	農林業に必要な計算の方法などを知ることができたり、経営管理論の授業とリンクするところがあつたりととてためになる授業が受けられてよかったです。プロジェクターを使用していてわかりやすかったです。
	ケースメソッドおもしろかったです。いろいろなパターンや傾向を想像できた点。
経営管理論(1年)	
	具体的な経営体の事例を用いて説明してくれた点

	経営学の理論が普通の勉強にも応用できるものが多く、とてもプラスになったと感じる
	レジュメの情報量が豊富であることや具体例を頻出して理解を深めようと試みていること、先生のわかりやすく面白い解説が聞けることの3つが良い点であると思いました。
	実際の企業の例で学ぶことができたので分かりやすく身につけることが出来た点
	経営学の理論と実際の利用例を知ることができたこと。
	写真が多く、とても具体的なマーケティングの例を毎回の授業で挙げられていて、わかりやすかった。
	経営の基本をピックアップして分かりやすい内容となっていたので良かったです。現在成功している企業を取り上げ、その企業がどうやって成功したのかを説明してくださったのでありがたかったです。また、質問をしたら次の授業で答えていただけるので疑問点も解消出来ました。
	実際に経営の仕方成功した会社をたくさん取り上げてくれたので製品や取り組み、例えばCMなど、想像がしやすかった。 「この状況に陥った場合あなたならどうするか」のような自分で考える場面があった点。私自身、自分で考える力が備わっていないと思っているので、問題を設けていて考える練習と授業の復習のような場になってよかった。 授業の最初に、前回の質問にスライドを作って答えてくれてとてもわかりやすかった。
	経営に関する持たなくてはならない視点について学ぶことができ、とても勉強になりました。 沢山の企業の事例を取り上げていてわかりやすく理解がしやすかったです。
	多様な経営論を挙げていて、かつ大事なところを強調して説明なさっていてとても理解しやすかった。
	経営について良い事例やその企業がどんな工夫をしているかなどを学べたこと。
	マーケティングについて成功例をもとに理解することが出来た。
農山村田園公共学(1年)	
	静岡の地域について歴史的な推移を知れた点
	祭りが地域にとって良い影響を持つことが分かった。
	遠州地方に存在する民俗を具体的に知れたことやプレゼン発表の過程で地元の文化を見直すことができたことが良かったです。
	静岡の民俗学を学べたこと。歴史を知るのが元々好きなので、とても興味深かった。
	民族誌や日本の祭りについて詳しく学ぶことが出来たので良かったです。また、自分で祭りのプレゼンを作り、人前で話すことで積極性を持ってました。自分の地域の祭りを調べたことで、自分の地域や祭りに一層興味を抱くようになりました。祭りにもまた行きたくくなりました。
	祭りの授業の際、祭り専門みたいな話がたくさん出てきて初めて聞くような言葉ばかりだったがそのたびに語句の説明してくれたのと、プリントを読むスピードがゆっくりだったので、理解しながら、ふりがなをふりながら聞くことができた。 祭りの授業が多いように感じたが、社会組織など、自分が今まで考えたことのない視点から考えられたのが面白かった。自分で祭りを調べて自分の言葉でプレゼンしたのも、もっと理解が深まったと思った。
	祭りのことなどについて学ぶことができて他の授業とは全く違い、面白かったです。 一番後ろの席でしたが、先生の声が聞こえやすかったです。
	みんなのプレゼンが聞けて楽しかった点。 資料が多く、民俗学についてよく知れた点。
	自分が普段から参加している祭りについて調べるきっかけになったこと、祭りで使われる用語などを学ぶことができたこと。
	祭りや静岡県の市の昔からの文化など知れて面白かったです。
	PowerPointを使っの発表があったので、そういったのに慣れる機会になった。 他の人の発表と比べて自分の改善点などを見つけることが出来た。
	プリントが、先生自身の言葉で纏められていて分かりやすかった。
分子生物学(1年)	
	高校では習うことが出来なかった、分子生物学について学ぶことが出来た。農業にも通じているので今後役に立ちそうだと感じた。
	PCR実験を行えたことがとても楽しかったです。
	またPCRと電気泳動の実験が出来ると思っていなかったので、受講できてよかったと思う。
	川柳を考えるのが楽しかった。実験が楽しかった。
	川柳で教室の空気を纏めた後、授業の内容に入っていくのが、集中出来て良かった。スライドとレジュメの作りも分かりやすかった。
農林業のための化学(1年)	
	農林業に関係する化学分野の知識について高校の知識を用いながら復習することが出来た点
	高校の化学だけでは学べなかったことを細かく学ぶことができた点。人数が少なくてやりやすかった点。
	高校での化学とは少し違った視点から化学に触れることができ、思考力が試される場面が多かったため、とても面白かった。
	化学は苦手だったため、説明がわかりやすく受講していても負担があまりなかったこと。先生の経験したことを話を聞くのが楽しかったです。
	高校化学のように知識を問う化学ではなく、思考力をつける問題が多かったので将来のためになったと思う。
	化学が苦手だったのでめっちゃ化学な内容だったら正直やりたくないと思ってたけど、内容がとても面白かったので授業が楽しかった。色々な知識を得ることが出来た。
	身近における化学やその応用について図や分かりやすい説明で学ぶことができた。
歴史学概論(2年)	
	歴史において重要な出来事に対して庶民の視点から見た出来事や生業が今の農林業に活かせるような在り方について深く考えることができた点
	歴史が好きなので、全体的に良かったと思います。普通の歴史を学んでは絶対得ることが出来ない知識(身近な庶民の生活など)を身につけることができ、受講してよかったと思いました。 秋葉信仰の話がとてもおもしろかった。道祖神の話も、15時間くらい喋れるって聞いて聞いてみたいと思った。 伝説とか、伝わる妖怪?のような話も今度は聞いてみたい。
	日本の歴史について再確認でき、そのほか信仰関連の興味深い話も聞くことが出来た
経営戦略(2年)	
	経営をしていくにあたる下準備的なものを学ぶことができた。
	実際の企業を取り上げ、説明する講義は分かりやすかった。こういった戦略があるのかが分かり、将来に役立つ内容も多かった。
	実際の企業についても考察できてよかった。
	経営をする上での必要な考え方や知識についてを深めることができた点
	自分で経営を考える小テストが難しかったです、これのおかげで将来経営するにあたってのビジョンが見えてきた気がします。
	さまざまな戦略について学ぶことができた。経営状況に応じて戦略を考えることが大切だと知ることができた。

	経営について、1年の時の内容を混ぜてより深く勉強することができました。
	実例を例に時代や社会によってどのように経営方法を行えばよいかを学べた
	様々な戦略や経営を学んだ人々の思想を学べた
	経営をする中の経営体制などを学ぶことができ、実際に経営する際に使える知識を沢山につけることが出来た。また事例とともに学ぶことで現実味が出た。
	グループワークで自分の意見が言えるようになって、よかったです。
農業気象学(2年)	
	ハイハウスの補強について詳しく知れてよかった。また、植物が気象の変化でどういった影響を受けるから知れてよかった。
	ハウスの構造詳しく知ることが出来て良かったと思います。実際に見て理解することが出来ました。
	気象について知ることができた。座学だけでなく、実際に圃場に行って、確認することができてよかった。
	気象のことだけでなく、その気象に対しての栽培対策なども教えていただくことができ、面白かった。
	気象のみならず、その対処法(特にハウス)を知れた点
	農業は気象に大きく関わる産業なので、様々な影響を知ることが出来て良かったです。
	もともと、気象には興味があったので、それを農業の視点から学べて、面白かったです。授業が終わっても、独学での勉強に励みたいと思います。
食品科学(2年)	
	日常生活において特に必要な食品科学の知識を得ることができたと思います。食品科学を受講したおかげで植物病理学の細菌などの話がより理解しやすかったです。
	HACCPはこれから畜産を学ぶ上で切ってもきれない存在なので、学べてよかった。あと、人工肉の存在は将来畜産の脅威になりそうで怖いと思った。でも、存在を知れてよかったし、面白かった。
	食品の保管方法、繁殖する病原体の危険性などを知ることが出来た
財務会計(2年)	
	簿記では習わない財務会計について学べてよかった。経営の役になる、その企業の状態について学ぶことができた
	簿記で学んだこともあって知識が深まった。実際にある企業を例にして企業分析したのは面白かったです。
	実際に企業の経営分析をできてよかった。
	最初はとても難しくわからないと思っていましたが、先生の細かな説明と分かりやすい進め方により、内容が理解出来ました。簿記では学べないところを経営するにあたって重要だと思うところを重点的に学ぶことが出来たと思います。
	先生の説明が本当にわかりやすかった。声も聞きやすく、テレビのナレーションやってるのかと思うくらい聞きやすかった。
	簿記の延長のような内容で、財務諸表の見方など、今度に活かせる知識を得ることができてよかった。
	データからどのような情報を取り出し、それを利用するのか。その術を身に付けることが出来た。
	簿記で学んだことと結び付いて良かったです。
	先生が重要な箇所をテストで、確認してくれるので、頭に入って聞きやすかったです。
圃場実習(栽培、2年)	
	栽培のいろいろな分野について一通り学ぶことができた。大変さ楽しさ、知識に経験学ぶことができました。
	実習を通して知れることや大変さを体験できた。栽培知識や技術も深まり、さらに深めていきたい。
	柑橘の病害虫や剪定など、より専門的なことを学べたので良かった。
	栽培コースのローテーションで実習を行い、広く浅く学ぶことが出来たのはとても良い経験だったと思います。自分が専攻するコース以外の作目に触れることで、自分のやりたいことがわかってきた気がします。
	去年の総合実習とは違い、3つのコースに分かれたため、栽培の知識をより多く学ぶことができよかった。また、1日に2コマ連続であったため、充実した実習を行うことができよかった。
	栽培に関する知識、技術を広い範囲で学べた点
	天候が不安定な時期だったので、お茶の二期作が行えなかったのですが、代わりにお茶の加工について詳しく知れたので良かったです。
圃場実習(林業、2年)	
	講義で習ったことを実際に行うことで知識と技能がより密接に理解できたと思う点 現在の林業体を視察することで今求められる考え方が明確になった点
	山に行ったり、組合や企業にお話を聞きに行くことができたりなど、実際に足を運ぶ事で今までになかった新しい視点を見つけれられたような気がします。
	実際に林業の作業を行って学べたこと
	実践的に学べた点が特に楽しかった
圃場実習(畜産、2年)	
	圃場実習では畜産における必要最小限の知識ではなく、多くのことを学ぶことができた。
	鼻環をつけたり、去勢をしたりと、経験できてよかった。めっちゃめっちゃ手が震えたけど、楽しかった。 週に一回しかなかった分、濃い実習が楽しかったし、勉強になった。 鶏も、牛も、暑さや寒さを考えて環境を整えていく大切さがわかった。
	牛、豚、鶏全部を幅広く学ぶことが出来ました。とてもいい経験になったと思います。
GAP演習(2年)	
	gapについてよく知らなかったけど、取得の意味について知れたので良かったです。 取得して役立てたいです。
	gapは、農業生産だけでなく人権保護や労働管理などなど従業員に配慮しなければならないということを知れた。 gapやリスク評価の作成など将来に役立つような内容があり面白かった。
	実際に圃場や現場を視察する機会が多くて、貴重な体験ができた。
	GAPがどのようにして認証されているかや各分野での取得の条件の相違などを知れたこと
	GAPのことについての講義は初めてで基礎から詳しく知ることが出来ました。 実際に実家でもGAPに挑戦していきたいと思える内容で、とても実践に役立つ講義だったと思います。
	日本におけるGAPの行動がどうなっているかを知ることができた。
	GAPについてほとんど何も知らなかった様なものなので、詳しく知れてよかったし、外部視察は楽しかった。先生優しく授業の人柄も好きです
	座学で話を聞くだけでなく、実際に現場を見に行ったり、グループワークを行うことで、GAPに対する理解が深まった。
	GAPがどのような物なのかを知ることができ、実際の現場への視察もあったので楽しかった

	GAPという農業にとって大きなメリットが生まれる武器について詳しく学べた。また、視察で他種の業界についても学べた
	GAPという考え方に触れることができて良かった。もし今後農業をやるとしたら是非取り組みたい。
	あんまり詳しく知らなかったGAPについて、実際に見学をしに行ったりして現場を見学することができてよかった
	GAP取るにしても取らないにしても整理整頓はしっかりした方がいいとおもった。記録もつけるのも大事だと思った
	実際の現場を多く見に行けたから良かった。将来役に立ちそう
	グループワークなどで、リスクについて自分たちで考えられたので、判断する力が身に付いたと思います。
英語 (2年)	
	文学的な英文を読めたり、リスニングの練習ができてよかった。世界遺産についても知れて面白かった。
森林計画・政策論(2年)	
	森林施業する上での大切な考え方やそれに必要な技術、関わる政策についてを深く知ることができた点
	法律について、山での現場の仕事について、今注目されている技術についてなど色々な事について教えていただくことができ、面白かった。
土壌肥料・植物栄養学(2年)	
	植物が必要とする肥料成分や土壌の特徴について知れて、将来に活かそうだった。
	多量要素と微量要素について知れてよかった。
	植物栄養については、高校までの生物の範囲から植物栽培において必要な知識をピックアップして専門的に教えてくださったので、本当に必要な知識を得ることが出来たと思います。
	土壌や肥料については基盤となる知識だと思うので学ぶことができてよかった。
	病害の種類と防除法を知ることができ、農業を営む上で大いに役立つことを学べた
	病害虫について詳しいことが知れた
	内容は暗記しなくてはならない箇所が多く大変でしたが、小テストなど確認の機会があったので、自分に身に付いたと思います。
植物病理学(2年)	
	植物の病気の症状、原因、見分け方、特徴、対処法など幅広いことを学べたかったです。
	見た目が似ている病気を取り上げて頂き、見分け方や違いを手にとって確認することで、興味が深まりました。また、資料多く活用しているので難しい内容でも分かりやすかったです。
	毎回違う病気を紹介してくれて、幅広い病気の知識が身に付いたと思います。病原菌から細かく説明があり、説得力があり、わかりやすかったです。
	情報量が多く、とても充実した授業だった。実物を見ることで、授業の内容の理解が深まった。
	様々な病害を写真や実物と共に説明をしていたのでわかりやすかった
	これまで植物の病気について全く知らなかったもので、この講義でたくさん知識をつけることが出来た。また、自分で調べることによってその病気のことを詳しく知ることが出来たのも良かった。
	病気になっている葉っぱを実際見れたり、現場での知識の活かし方がわかったのが良かった。
	植物病理について詳しいことが幅広く学べた
応用昆虫学(2年)	
	昆虫の生態について学べたこと。その生態を利用した防除方法について学べました。
	昆虫の生態的特徴や防除の種類について詳しく知れた。防除は環境に適したものを使い分けことが重要だと知れた。
	昆虫については今まで学んだことがなかったので、全てが初めて知ることばかりでした。実際に虫を捕まえて同定したのはなかなかできないことなので楽しかったです。
	昆虫についての知識を学ぶことは今までほとんどなかったので、とても新鮮で授業を楽しめた。
	昆虫の特徴やそれぞれの種の防除法の知識が身につけられた
	植物病理学とセットになるような内容で、農業を行う上で意識しなければならないことを学べた。
	害虫を殺すだけでなく共存できるようにとBMなる考えもあることを知れた
	昆虫や害虫について詳しくなり、防除の方法などを知ることで今後農業を行う際に役立つと感じた。
	グループでのディスカッションが、自分の力を向上させるのに役立ちました。言い方を徐々に工夫して、どうやったら相手に納得してもらえるかを考えられてよかったです。
造林学(2年)	
	木材生産についての基礎知識や今の林業の実態などを分かりやすい説明で理解できたと思う点
	問いを投げかけてくださり、考えさせていただけるスタイルをとっていただけたことで意欲的に授業に参加できた。
	林業の基本のことが学べたこと
森林土木学(2年)	
	森林を管理する上で災害防止の考え方やそれを起こす原因、対策などを深く学ぶことができた点
	動画を見せていただいたり、色々な資料をくださったりと授業でやる分野から派生した部分まで学べて面白かった。
飼料総論(2年)	
	家畜の飼料についての基礎知識を得ることができた。
	飼料について知れたのでよかった。粗飼料から濃厚飼料までの多くをしてよかったし、計算が得意じゃなかったのがピアソンについて知れたのはとてもわかりやすかった。先生の話とか教える方が面白かったです。
家畜生理解剖学(2年)	
	家畜の生理や生命活動を知ることができた。
	人工授精や去勢に必要な知識を座学で深く学べた。
	家畜や愛玩動物の体内について学べたのも面白かったし、難しかったけど楽しかった。
	範囲が多いなか、ポイントを掻い摘んでわかりやすく教えて貰えました。
家畜飼養学(2年)	
	家畜の飼養における基礎を知ることができた。
	話が面白かったです。教科書を読んでもらうだけじゃあわからないこともたくさんあったので、受講してよかった。
	大、中、小家畜それぞれの飼養管理について、幅広く学べました。
英語 (3年)	

	英語でコミュニケーションすることが最初は苦手で不安でしたが、コミュニケーションすることの楽しさを学ぶことができました。とても充実していました。
農村景域論(3年)	
	柳田國男への愛が伝わった
	改めて日本の良さを学べた気がする
食品流通論(3年)	
	自分で考える力が身につく
	今と昔の流通の違いがわかった
販売管理実習(3年)	
	講義がふたコマ連続であったがどちらの先生も飽きさせない工夫が見られた。
	説明の仕方が上手。
食品加工実習(3年)	
	いろんな地域の食べ物を知ると同時に食べて覚えた
	ただ作るのではなく、原理を知れたことがよかったです。
	実際に食品を扱い加工を行うので6次化が現実的かどうかを考えるきっかけになった
	料理するの面白かった
茶道(3年)	
	茶道という今の若い世代では触れにくいことを本格的に学べたことがとてもよかった。また、茶を点てること作法だけでなく用語や歴史、茶菓子の説明も詳しく聞けたこともよかったです。
華道(3年)	
	華道の美しさを知った。
	生け花とフラワーアレンジメントの違いが分かった
在来作物学(3年)	
	時際に在来作物を栽培している人の話を聞けて、現状を知ることができた
グリーンツーリズム論(3年)	
	校外学習で実際に話を聞いた
	外部講師の方のお話を聞いたり、実際にグリーンツーリズムを行う現場へ赴いたこと。
	今後の農業は上手く人を利用できるかどうか鍵になると思った。(農泊など)

令和4年度 教員授業参観報告(まとめ)

FD・SD委員会

1 実施状況

〔生産環境経営学部〕 実施教員数 15人(実施率63%) 実施回数 15回
 〔短期大学部〕 実施教員数 15人(実施率75%) 実施回数 16回

2 授業の参考となった点・気づいた点

授業の 進め方 及び 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸、畜産、林業と幅広い政策範囲をフォローされており、驚きました。それぞれ専門性が高いので、真似をさせていただくのは難しいところです。 ・抽象論で無く、実例(実際に菊池先生が経営指導を行ったことのある有名企業における実例を豊富に取り上げて解説していることで非常に理解がしやすい。 ・ご自身の経験談(畜産)を交えながら時間をかけて丁寧に説明されていたことから、学生にとっては、説明の内容が理解しやすい授業という印象を受けました。 ・随所で学生を指名して答えさせており、緊張感のある授業になっていると感じました。 ・講義の最初で、前回の講義の振り返りがありかんたんな復習と今回の講義の導入になってわかりやすかった。 ・学生に意見を聞き、コミュニケーションを取りながら講義を進めていた。 ・前回の振り返りや学生の感想を紹介している点について、私も参考にしたいと思った。 ・学生の興味を引くように、今日的な話題を取り上げて説明している。講義の焦点がややわかりにくいかと思った場面もあったが、後でいただいた資料を見たところ、講義の内容が書かれて、ポイントは()になっていて、学生に書かせるようになっており、その点はクリアされているようだった。また、学生の意見を聞きながら講義を進める工夫がされていて、参考にしたいと思った。 ・これまでの研究や経験に基づいた授業は説得力があった。 ・講義の最初で、前回の重要点の復習を行い、記憶を確実なものとしていた。 ・講義で使用するパワポ資料をプリントアウトして、理解に努めていた。 ・重要なことの概要的な部分をしっかり説明してから、詳細な部分を説明する構成になっていて、分かりやすい。 ・スライド1枚あたりに対する時間配分が参考になりました。時間に余裕を持つことで、スライドと板書を組み合わせたスタイル、学生への問いかけ、前回の授業を振り返りながらの進行を行っていました。これらのことは、学生の主体的な学び方につながっていると感じました。 ・前回(?)のアンケートに対するコメントをしながら、これまでの講義で話した重要な内容について復習させており、知識の定着に繋がると考えられた。 ・前回の復習のスライド1枚を用意し、知識の定着を図っていた。 ・本日のポイントと称するスライドを初めに示したことで、話している内容や主張する内容が予想しやすかった。 ・テキストに沿って順番に丁寧に説明していた点は、学生もフォローしやすいのではないかと感じ、とても参考になりました。時折、クイズ形式での質問や補足の説明も取り入れるなど、工夫されている様子がよく伝わってきました。 ・教授する内容の量が多く、学生に考えさせる時間がなかったと思われるが、学生が興味を持つ素材が沢山ある ・去年よりも授業資料がさらに丁寧に、わかりやすく、見やすかったです ・政策の話はどうしても一方的な説明で学生が受け身になりがちですが、スライ
------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>ドで用語を隠しておいて、後から出す手法は、学生が書き取ることで意識に残りますし、最後の小課題の実施についても、授業の復習にもなり効果的であると思いました。とくに今回の小課題では、用語の穴埋めだけでなく、本人の就農のキャリアパス、支援について考えさせており、単に覚えるだけに終わらせない工夫が参考となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの提示の仕方も、一般的な就農者の推移だけではなく作物別の常雇の年齢別の割合(男女別)、給与額など学生が自分の立場から考えるのに興味を持てるように工夫されていたと思います。講義で引用されていた農研機構「農業法人における従業員の人材育成ガイドブック」は、活用させていただきます。 ・解説する際に、教科書的な解説をするだけでなく、先生自身の感想や、小テスト(レポート?)で学生に提出させた意見・疑問を交えながら行うことで、学生自身が考えながら講義に参加出来ていると感じた。 ・コンパクトに紹介して、わかりやすく説明されていました。 ・資料に記載していないことも例え話で補足説明をされるので、眠くなりにくい ・途中で、学生に「分かりますか」と確認しながら授業を進めるので、メリハリがある感じがした。 ・豊富な事例を交えて話すことで、学生の興味をひいていた ・講義途中での学修理解の程度について、頻繁に学生に問いかけがなされ、学生に良い意味での緊張感を持たせるとともに、講義への集中や理解を促していた。 ・講義前に口頭での質疑応答により前回までの学生の理解度を確認し、当日の講義内容に理解が不十分な点を再度行うことで理解の定着を図っている点は参考になった。 ・テキストを指定するとともに、当日、パワーポイント等による補助的な講義資料を配布する授業があった。この配布により、学生の理解が深まることから、有益と思われた ・1年必修の講義であり受講者が多いため、Teams を上手に活用されており、講義終了前の小テストは自動的に採点・集計される仕組みになっていた。 ・資料(パウポ)のボリュームは多くないが要点を丁寧に説明しており解りやすかった。学生の理解スピードに合わせた授業でとてもよかった。情報量に頼らず、学生の理解につながる授業を心掛けたい。 ・パワーポイントでしっかりとポイントを押さえた説明がなされており、講義もかなりの熱量を持った説明がなされており、講義を聞く学生は、幸せだと感じた。 ・3人の受講生のため、意見交換するなど、各学生との双方向の授業ができており、学生は真摯に教員と向き合い、少人数での良い結果がでていると思いました。
授業の資料	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドや配布資料では、写真や図表が多く使用されており、視覚的にも理解が深まるような配慮がされていました。 ・配布資料に詳細にデータやポイントが記載してあり、理解しやすかった。 ・要点をまとめたカラーの資料が見やすく、最新の状況も反映させている ・イラスト等を適所に入れたパワーポイントを用いていた。講義資料は、分かりやすくまとめられており、スライドは見やすかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料およびスライドは簡潔にまとめられており、重要なポイントは時間をかけてゆっくり解説されていた。 ・講義内容のスライドには教科書のページが常に記載されており、その中でも重要な部分は動画を活用して解説されていた。 ・プレゼンが、非常に解りやすい図表で構成されていました。 ・プレゼン資料のほか、関係する配布資料が豊富で、教科書代わりの資料として有効に復習できるものと思われます。
課題・レポート 小テスト等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後に行った小テストは復習を兼ねており、内容が一過性にならないよう工夫されていた ・設問が書かれた小テスト形式の紙が講義の始めに配られ、それを授業中に完成させるため、教員の説明やしつかりと聞いているように見受けられた。 ・小テストを課すことで、学生は、自分の学習を振り返りながら知識を整理できているように感じました。 ・小テストとその結果も踏まえて、授業進行に対するフィードバックを行うことの必要性を感じた
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクを使ってはっきりと話されるため、マスク越しでも聞きやすかった。 ・話し方は抑揚があり、重要なところを強調してくれるので、とても頭に入ってきやすい ・生産環境経営学部2年生の必修科目であり、25名ほどの学生が受講していたが、私語もなく教室内は静かであった。どの学生も、真剣に講義に参加していた。 ・日常会話で使われる言葉で話し、学生にも伝わりやすいと考えられた。 ・先生の問いかけに積極的に応答する学生もいて、良かったと感じました。 ・少人数の授業でしたが学生たちも和気あいあいとした雰囲気積極的に課題に取り組んでいたのが良かったと思います ・遠隔授業に急遽変更になったにも関わらず、授業資料の配信とともに確認テストを課し、さらに採点結果を再配信するなど、40人いる学生とのキャッチボールについて労を惜しむことなく実施された。こうした労を惜しまない授業姿勢が、学生からの信頼を勝ち取り、ひいては学生の学修意欲を高めることに繋がっていると感ずることができた。 ・他の講義と共通する部分で重要なポイントもしっかり解説されており、他の講義内容を把握されながら自身の講義をされていると感じた。 ・汗をぬぐいながら、軽妙な口調で、実は難しい内容をうまく解説できるのは、1つには、各地で講義・講演を積み重ねてきた御経験の賜物と感ずきました。 ・説明の声、スピードもほどよく、実体験や多くの事例を混ぜながらの説明は、理解しやすく、退屈にならないような創意工夫をなさいました。

3 提案や改善を要す必要があったと感じた点等

授業の進め方 及び 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に資料を使って考えさせる時間があればさらに授業内容が定着させることができたのでは。 ・質問の時間があれば良いと感じた。 ・授業で具体例が出てくれば学生の反応が高まるのではないかと思う。学生に身近でない事項の授業はどのように行うか難しいと感じた。 ・学生間で報告書や発表会の原稿を作成する過程でより相談し、相互の内容のブラッシュアップに結びつけるように強く指示しておくことが必要かもしれません。
授業の資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を渡すことは有効と考えるが、渡すことで安心してしまい授業を聞くことがおろそかになる恐れもあると思う

課題・ レポート 小テスト等	・小課題に恥ずかしいメモを残してしまいましたが、自分の就農に向けたキャリアパスを考えようとしたところ、漠然としたものしか浮かびませんでした。余裕も余力も柔軟性もなくなっているのを痛感します。
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

短期大学部
生産科学科 講師
坂口 良介 先生

昨年に続き栄えある賞を頂き、学生並びに関係各位の皆様にご心より御礼申し上げます。

常に教育者としての原点を忘れずに、学生達と関わっていききたいと思っております。

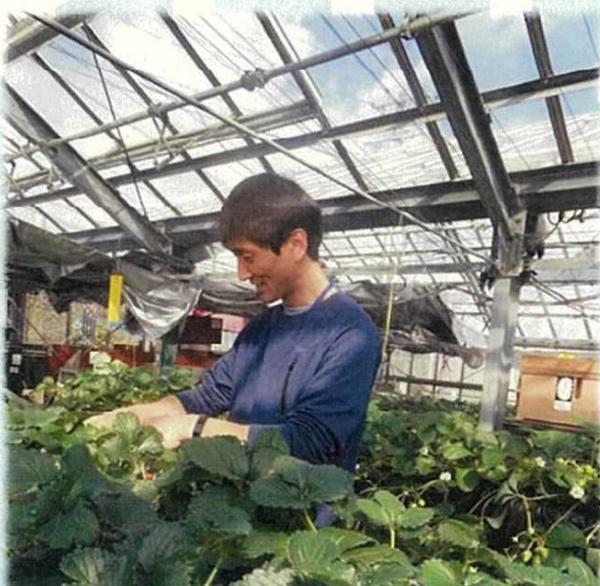
そして自身の技術に磨きをかけ、実務家教員としてさらに高みを目指してまいります。



優秀教員賞

令和4年度受賞者のお知らせ

本学では教員の意欲向上と学校教育の活性化を目的に、毎年度優秀教員を選考し、表彰することとしています。令和4年度の短期大学部・大学の各受賞者を決定したので、お知らせします。



生産環境経営学部
講師
大石 竜 先生

このような賞をいただき、光栄です。

推薦理由に実習での説明がわかりやすいとのコメントが多く、とても嬉しく思います。より一層、効率的な作業の流れや高収量・高品質な生産を行うための管理のポイントを伝えていけるよう、頑張っていきます。

また、多くの教職員の方々と協力しながら、意欲ある学生たちと実習ができる今の環境に改めて感謝したいと思います。

この度は本当にありがとうございました。

令和4年度 教員授業参観報告(まとめ)

FD・SD委員会

1 実施状況

〔生産環境経営学部〕	実施教員数 15人(実施率63%)	実施回数 15回
〔短期大学部〕	実施教員数 15人(実施率75%)	実施回数 16回

2 授業の参考となった点・気づいた点

授業の 進め方 及び 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸、畜産、林業と幅広い政策範囲をフォローされており、驚きました。それぞれ専門性が高いので、真似をさせていただくのは難しいところです。 ・抽象論で無く、実例(実際に菊池先生が経営指導を行ったことのある有名企業における実例を豊富に取り上げて解説していることで非常に理解がしやすい。 ・ご自身の経験談(畜産)を交えながら時間をかけて丁寧に説明されていたことから、学生にとっては、説明の内容が理解しやすい授業という印象を受けました。 ・随所で学生を指名して答えさせており、緊張感のある授業になっていると感じました。 ・講義の最初で、前回の講義の振り返りがありかんたんな復習と今回の講義の導入になってわかりやすかった。 ・学生に意見を聞き、コミュニケーションを取りながら講義を進めていた。 ・前回の振り返りや学生の感想を紹介している点について、私も参考にしたいと思った。 ・学生の興味を引くように、今日的な話題を取り上げて説明している。講義の焦点がややわかりにくいかと思った場面もあったが、後でいただいた資料を見たところ、講義の内容が書かれて、ポイントは()になっていて、学生に書かせるようになっており、その点はクリアされているようだった。また、学生の意見を聞きながら講義を進める工夫がされていて、参考にしたいと思った。 ・これまでの研究や経験に基づいた授業は説得力があった。 ・講義の最初で、前回の重要点の復習を行い、記憶を確実なものとしていた。 ・講義で使用するパワポ資料をプリントアウトして、理解に努めていた。 ・重要なことの概要的な部分をしっかり説明してから、詳細な部分を説明する構成になっていて、分かりやすい。 ・スライド1枚あたりに対する時間配分が参考になりました。時間に余裕を持つことで、スライドと板書を組み合わせたスタイル、学生への問いかけ、前回の授業を振り返りながらの進行を行っていました。これらのことは、学生の主体的な学び方につながっていると感じました。 ・前回(?)のアンケートに対するコメントをしながら、これまでの講義で話した重要な内容について復習させており、知識の定着に繋がると考えられた。 ・前回の復習のスライド1枚を用意し、知識の定着を図っていた。 ・本日のポイントと称するスライドを初めに示したことで、話している内容や主張する内容が予想しやすかった。 ・テキストに沿って順番に丁寧に説明していた点は、学生もフォローしやすいのではないかと感じ、とても参考になりました。時折、クイズ形式での質問や補足の説明も取り入れるなど、工夫されている様子がよく伝わってきました。 ・教授する内容の量が多く、学生に考えさせる時間がなかったと思われるが、学生が興味を持つ素材が沢山ある ・去年よりも授業資料がさらに丁寧に、わかりやすく、見やすかったです ・政策の話はどうしても一方的な説明で学生が受け身になりがちですが、スライ
------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

	<p>ドで用語を隠しておいて、後から出す手法は、学生が書き取ることで意識に残りますし、最後の小課題の実施についても、授業の復習にもなり効果的であると思いました。とくに今回の小課題では、用語の穴埋めだけでなく、本人の就農のキャリアパス、支援について考えさせており、単に覚えるだけに終わらせない工夫が参考となりました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの提示の仕方も、一般的な就農者の推移だけではなく作物別の常雇の年齢別の割合(男女別)、給与額など学生が自分の立場から考えるのに興味を持てるように工夫されていたと思います。講義で引用されていた農研機構「農業法人における従業員の人材育成ガイドブック」は、活用させていただきます。 ・解説する際に、教科書的な解説をするだけでなく、先生自身の感想や、小テスト(レポート?)で学生に提出させた意見・疑問を交えながら行うことで、学生自身が考えながら講義に参加出来ていると感じた。 ・コンパクトに紹介して、わかりやすく説明されていました。 ・資料に記載していないことも例え話で補足説明をされるので、眠くなりにくい ・途中で、学生に「分かりますか」と確認しながら授業を進めるので、メリハリがある感じがした。 ・豊富な事例を交えて話すことで、学生の興味をひいていた ・講義途中での学修理解の程度について、頻繁に学生に問いかけがなされ、学生に良い意味での緊張感を持たせるとともに、講義への集中や理解を促していた。 ・講義前に口頭での質疑応答により前回までの学生の理解度を確認し、当日の講義内容に理解が不十分な点を再度行うことで理解の定着を図っている点は参考になった。 ・テキストを指定するとともに、当日、パワーポイント等による補助的な講義資料を配布する授業があった。この配布により、学生の理解が深まることから、有益と思われた ・1年必修の講義であり受講者が多いため、Teamsを上手に活用されており、講義終了前の小テストは自動的に採点・集計される仕組みになっていた。 ・資料(パウポ)のボリュームは多くないが要点を丁寧に説明しており解りやすかった。学生の理解スピードに合わせた授業でとてもよかった。情報量に頼らず、学生の理解につながる授業を心掛けたい。 ・パワーポイントでしっかりとポイントを押さえた説明がなされており、講義もかなりの熱量を持った説明がなされており、講義を聞く学生は、幸せだと感じた。 ・3人の受講生のため、意見交換するなど、各学生との双方向の授業ができており、学生は真摯に教員と向き合い、少人数での良い結果がでていると思いました。
授業の資料	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドや配布資料では、写真や図表が多く使用されており、視覚的にも理解が深まるような配慮がされていました。 ・配布資料に詳細にデータやポイントが記載してあり、理解しやすかった。 ・要点をまとめたカラーの資料が見やすく、最新の状況も反映させている ・イラスト等を適所に入れたパワーポイントを用いていた。講義資料は、分かりやすくまとめられており、スライドは見やすかった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料およびスライドは簡潔にまとめられており、重要なポイントは時間をかけてゆっくり解説されていた。 ・講義内容のスライドには教科書のページが常に記載されており、その中でも重要な部分は動画を活用して解説されていた。 ・プレゼンが、非常に解りやすい図表で構成されていました。 ・プレゼン資料のほか、関係する配布資料が豊富で、教科書代わりの資料として有効に復習できるものと思われます。
課題・レポート 小テスト等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の最後に行った小テストは復習を兼ねており、内容が一過性にならないよう工夫されていた ・設問が書かれた小テスト形式の紙が講義の始めに配られ、それを授業中に完成させるため、教員の説明やしつかりと聞いているように見受けられた。 ・小テストを課すことで、学生は、自分の学習を振り返りながら知識を整理できているように感じました。 ・小テストとその結果も踏まえて、授業進行に対するフィードバックを行うことの必要性を感じた
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクを使ってはっきりと話されるため、マスク越しでも聞きやすかった。 ・話し方は抑揚があり、重要なところを強調してくれるので、とても頭に入ってきやすい ・生産環境経営学部2年生の必修科目であり、25名ほどの学生が受講していたが、私語もなく教室内は静かであった。どの学生も、真剣に講義に参加していた。 ・日常会話で使われる言葉で話し、学生にも伝わりやすいと考えられた。 ・先生の問いかけに積極的に応答する学生もいて、良かったと感じました。 ・少人数の授業でしたが学生たちも和気あいあいとした雰囲気の中で積極的に課題に取り組んでいたのが良かったと思います ・遠隔授業に急遽変更になったにも関わらず、授業資料の配信とともに確認テストを課し、さらに採点結果を再配信するなど、40人いる学生とのキャッチボールについて労を惜しむことなく実施された。こうした労を惜しまない授業姿勢が、学生からの信頼を勝ち取り、ひいては学生の学修意欲を高めることに繋がっていると感じる事ができた。 ・他の講義と共通する部分で重要なポイントもしっかり解説されており、他の講義内容を把握されながら自身の講義をされていると感じた。 ・汗をぬぐいながら、軽妙な口調で、実は難しい内容をうまく解説できるのは、1つには、各地で講義・講演を積み重ねてきた御経験の賜物と感心しました。 ・説明の声、スピードもほどよく、実体験や多くの事例を混ぜながらの説明は、理解しやすく、退屈にならないような創意工夫をなさいました。

3 提案や改善を要す必要があったと感じた点等

授業の進め方 及び 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学生に資料を使って考えさせる時間があればさらに授業内容が定着させることができたのでは。 ・質問の時間があれば良いと感じた。 ・授業で具体例が出てくれば学生の反応が高まるのではないかと思う。学生に身近でない事項の授業はどのように行うか難しいと感じた。 ・学生間で報告書や発表会の原稿を作成する過程でより相談し、相互の内容のブラッシュアップに結びつけるように強く指示しておくことが必要かもしれません。
授業の資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を渡すことは有効と考えるが、渡すことで安心してしまい授業を聞くことがおろそかになる恐れもあると思う

課題・ レポート 小テスト等	・小課題に恥ずかしいメモを残してしまいましたが、自分の就農に向けたキャリアパスを考えようとしたところ、漠然としたものしか浮かびませんでした。余裕も余力も柔軟性もなくなっているのを痛感します。
----------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------

(1) 教育活動関係

教育活動成果

創意工夫をした学習効果を高める活動

No	氏名	講義名	内容
1	稲葉善太郎	花き栽培	< 動画活用 > ・花きの日持ち性、PR活動等、公開されている動画を有効に活用し授業内で視聴させ国の施策と業界活動の結びつきを感じさせた。
1	稲葉善太郎	花き栽培	< 現物展示、体験 > ・現在、研究が進んでいる花きの機能性について、リハビリテーション現場で実践されているフラワーアレンジによる身体機能回復を授業の中で座学と併用して体験した。
2	片山 信也	畜産学概論	< 繰り返し学修 > 講義初めに、前回の講義内容確認のための個別質問、講義終了後に重要事項確認のためのプリントを配布し、必須となる基礎知識の確実な学修につとめた。
2	片山 信也	環境保全型農業論	< 両論併記と動画活用 > 環境破壊者として畜産業が批判される中で、最新の根拠を示して人類生存上、畜産業がなくてはならない産業である理由を解説するとともに、人工肉・合成肉の限界と矛盾を示した。短大では、わかりやすいビデオを示しながら理解を深めるようにした。
2	片山 信也	畜産環境・たい肥利用論	< 現物提示、動画活用 > 環境問題が 畜産業の維持・規模拡大の制限要因である点を協調し、主な苦情源となる悪臭対策の解説に力をいれた。また、畜産関連の特定悪臭物質の現物展示と動画解説を示して、学修効果を高める工夫をした。
2	片山 信也	飼料総論・家畜飼養	< 相互科目の関連解説 > 複合的に理解する方が実用・実践的になる項目については、両科目の講義内容を交互に示しながら解説して、学修効果を高める工夫をした。また、北海道、欧米の大型経営で導入される最新技術を動画を教材として解説した。
3	小林 信一	野生鳥獣管理利用論(短大,大学)	< 県主催講習会への参加 > 静岡県自然保護課主催の学生向け講習会への参加を課題の一つとした。動画を活用したり、罾の実習を行ったことで理解を深め、狩猟免許取得のインセンティブとすることができたと考える。
3	小林 信一	畜産経営演習	< 大学OBによる講義 > 農大時代の卒業生で県内に酪農で新規就農した農大の卒業生に、就農時に作成した青年等就農計画を開示指定いただきながら、就農までに経過や現状について講義していただいた。養鶏会社経営者からZOOMで新規就農のための心構えや養鶏業の現状について、話していただいた。
4	近藤 晃	造林学 森林計画学	< 現地での講義 > 座学で連続して行う両授業について、関連するテーマ「海岸防災林」を現地でそれぞれ両授業の視点で教授することにより講義内容の深化が図られた。
4	近藤 晃	木材生産システム	< ゲストスピーカーの活用 > 林業経営の実務に精通したゲストスピーカーの講義及び学生との意見交換を行うことにより、授業内容の深化が図られた。
4	近藤 晃	担当授業	< 関連時事の事前紹介 > 授業本論前に、「森林・林業の基礎知識」として関連する時事等を紹介することで、森林・林業への臨床的意識・関心の向上が図られた。
5	杉山 泰之	果樹栽培	< 現物提示 > ミカンの障害発生果実(日焼け果)を夏期に摘果しないで、収穫時期まで栽培し、その果実を切断し状況を確認させるとともに、学生に食べさせ、その触感と味を確認させた。

(1) 教育活動関係

教育活動成果

創意工夫をした学習効果をも高める活動

5	杉山 泰之	果樹栽培	< 現物提示 > 毎回、違う種類のカンキツ類を食べさせ、青島と早生の違いや、新しい品種の味を体験させた。
5	杉山 泰之	果樹栽培	< 現物提示 > 数種類のカンキツの種子の皮を学生に剥かせ、単胚性と多胚性品種の違いを確認させた。
5	杉山 泰之	果樹栽培	< シャトルカードの活用 > シャトルカードを作成し、毎回、学生に意見や質問を書かせ、それに回答した。全員のためになる質問は授業中に紹介し、解説した
6	竹内 隆	圃場実習 (野菜)	< 動画による事前学修 > 野菜専攻学生39名に対し、イチゴの手製作業動画を圃場実習作業の事前に視聴させることで、摘蕾・摘花作業、収穫作業等を効率的に学修させることができた。
6	竹内 隆	静岡学	< コロナ対策 > 4大学生と合同で実施する本科目は特殊な講義(外来講師による)であることから、コロナ対策として教室を分け、Teamsによるオンラインを併用しつつ、着席密度を倍にするなどして学生間の距離を一定間隔空けること等に留意して通年授業を履行できた。また、合理的配慮が必要な学生には個室で聴講できるようにした。
6	竹内 隆	圃場実習 (野菜)	< 現物提示、動画活用 > イチゴ実習G学生11名に対し、交配、糖度測定方法等の解説動画を作成し、事前に視聴させることで、作業実習を円滑に学修させることができた。
6	竹内 隆	野菜栽培	< 現物提示、動画活用 > 県内各地から代表的な8種類の農耕地の土壌群を採取、サンプル調整をして、土壌への関心を高めさせるため授業内で現物提示した。 県内で栽培されている主要な野菜の種子31種を入手、サンプル調整をして、種子への関心を高めさせるため授業内で現物提示した。 成長点、花芽の観察等の自作動画、並びに野菜定植作業、防除作業等の公開動画を授業内で視聴させる等、実践的な座学を提供した。
6	竹内 隆	営農と農業 関連法	< 事例提示、ネット実演 > 品種登録、商標登録等、身近な題材の実例を提示して関心を高めるとともに、インターネットを活用したWeb検索方法を体感させた。
6	竹内 隆	イチゴ栽培 技術特別講義	< 特別講義の実施 > イチゴ関係への就職内定者(JA、イチゴ生産法人、関連企業)に対し受講希望を募り(短大2年生9名)、希望者に対して「イチゴ栽培の実践技術」について12月～2月にかけて5コマの特別講義を実施した。

(1) 教育活動関係

教育活動成果

創意工夫をした学習効果を高める活動

7	鷓飼 一博	演習林実習	<チェーンソーの操作技術の向上> 伐倒技術における受け口・追い口について、頭の中でより正確にイメージできるよう、徹底的に紙上で製図を行った。その結果、昨年度よりも正確なチェーンソー操作ができる学生が増えた。
8	中根 健	圃場実習 (野菜)	<GGAP基準の管理技術の習得> 温室メロン栽培では、圃場衛生、労働安全、環境保全の意識を高めるため、GGAP基準に従って実習を進め、GGAPの認定を更新した。
8	中根 健	作物栽培	<現物提示、実施方法実演> 座学に加え、生育調査、分解調査等の実習を実施することにより、作物栽培に対する理解を深めた。栽培のみでなく作物を取り巻く情勢について学習することにより、作物生産についての理解を深めた。
8	中根 健	県内農林業事情	<実例揭示> 温室メロンでは、県内の温室メロンの生産状況について、アンケート結果をもとに実際の数字を示すことにより、温室メロンの生産状況に関する理解を深めた。作物栽培では、「稲作の現状」をもとに、県内の作物の生産状況を示し、県内の作物生産に対する理解を深めた。
8	中根 健	農林業のための科学	<現物揭示> 短期大学の1年生を対象に、農業で使用する機械、施設(温室等)について、実際に機械、温室を見ながらその構造と特徴、使用用途等について説明した
10	横田 茂永	情報処理演習	<コラボレーションツールの活用> 授業の初期段階で、Teamsのオンライン・オンデマンド機能の実習を行うことにより、遠隔授業への備えとして、また通常講義での課題提出等の円滑な実施についても寄与することができた。
10	横田 茂永	農業経営	<手順や指標の確認方法を工夫> 経営分析の指標について、例題を出して、学生にその場で計算・回答させ、計算の手順や指標の評価を確認することで、受講学生全体の理解度を高めるようにした。
11	渡邊 貴之	家畜育種繁殖	動画と自作モデル活用 人工授精の際の直腸検査(触診)については自作のシリコン製臓器を利用し、学生に牛の直腸検査を体感させることができた。 牛の精液採取等近隣の農場で見学できないものについては、畜産現場で撮影した自作動画を用いて学生に解説した。
11	渡邊 貴之	人工授精論	現物の提示 食肉センターから回収した卵巣を用いて学生に卵子吸引および検卵等を体験させ、体外受精のデモを行った。
11	渡邊 貴之	農林業のための科学	資料作成、練習用装置の作成 農林業のための科学の畜産に関する講義資料を全て作成するとともに、学生の牛ロープワーク練習用の器具および動画を作成し、講義で利用した。
11	渡邊 貴之	圃場実習	練習用装置の作成、現物提示 ロープワーク練習用器具を用いて、学生のロープワーク練習機会を増やした。また、畜技研と調整して牛を借り、学生の直腸検査や人工授精の練習を行った。

(1) 教育活動関係

教育活動成果

創意工夫をした学習効果をも高める活動

11	渡邊 貴之	圃場実習	<ミニ講義の実施> 学生の疑問に対して、複数回のミニ講義を随時実施し、学生の理解を深めた。
----	-------	------	--------------------------------------------------

(1) 教育活動関係

教育活動成果

研究成果を授業にフィードバックするために授業に取り入れた内容や方法等

No	氏名	講義名	内容
1	稲葉善太郎	先端栽培技術	< 研究内容の講義内容への反映 > 委託試験・プロジェクト研究で実施している多様な波長を持つLED光源によるカーネーションの光形態形成について、オランダでの研究成果との共通点、相違点等を踏まえて先端栽培技術の講義で反映した。
3	小林 信一	野生鳥獣管理・利用論(大学)	< 授業に関連する内容の動画視聴 > 全日本鹿協会が主催した「港区エコプラザでのシンポ」や「シカ展in Atami」での発表を授業の一環として、オンラインで配信した。当日視聴できなかった学生には、動画での視聴の機会を作った。
5	杉山 泰之	果樹栽培 圃場実習	< 研究内容の体験 > 研究で実施している片面交互結実栽培について、果樹栽培の講義で説明し、圃場実習 で実際収穫させた。
6	竹内 隆	野菜栽培	< 動画作成と座学への導入 > 「イチゴ栽培技術の可視化による教育的効果に関する研究」において作製した動画コンテンツを授業内で視聴させることで、時期が限定されている成長過程の形態変化の観察講義等を補完することができた。 < 研究成果の座学への導入 > プロジェクト研究成果、共同研究成果の成果を授業に取り入れて解説した。
6	竹内 隆	施設園芸	< 研究成果の活用 > プロジェクト研究成果、共同研究成果の成果を授業に取り入れて解説した。
6	竹内 隆	圃場実習 (野菜)	< 動画作成と実習教育への導入 > 「イチゴ栽培技術の可視化による教育的効果に関する研究」において作製した動画コンテンツを実習開始時に視聴させることで、効率よく学修させることができた。 < 研究成果の実習教育への導入 > プロジェクト研究成果、共同研究成果の成果を実習開始時のミニ講義に取り入れて解説した。
6	竹内 隆	プロジェクト研究	< 環境モニタリング > Neponの統合環境制御装置で記録したデータをagrinetを経由してサーバー上からダウンロードしてモニタリングに活用した。
6	竹内 隆	職業教育	< 農林技術研究所技能労務員の職業とは > 標記の職員募集があることから、7月20日、7月27日の2回にわたって業務内容など職業知識の研修会を実施した。参加学生は7名。

(1) 教育活動関係

教育活動成果

特に重点的に始動したプロジェクト研究とその内容

No	氏名	実習・プロ	内容
1	稲葉善太郎	プロジェクト研究	課題名「光条件からみた草花類の設置環境と観賞期間」 学内各所に観賞用草花類を設置し、主に光環境条件と開花期間、植物体へのダメージを経時的に調査し、その際の品質変化や観賞性から草花類の展示場所としての適応性を調査した。
2	片山 信也	プロジェクト研究	課題名「ヤギ乳製品に任意のヤギ香を付与する手法の検討」 課題名「飼料中に発生する害虫(ノシメマダラメイガ)防除に関する研究」 両テーマとも、地方の学会発表ができるレベルの完成度を目標として指導した。(前年のプロジェクト成果は、東海畜産学会で2年連続して学生に発表させている。)
3	小林 信一	プロジェクト研究	課題名「酪農教育ファームによる乳製品の消費拡大及びコロナ禍による影響について」 自身が委員長を務める関東酪農教育ファーム推進委員会の協力をいただき、認証牧場へのアンケート調査を実施した。
4	近藤 晃	プロジェクト研究	課題名「ツリーシェルターがスギコンテナ苗の初期成長に及ぼす影響」 指導学生は体調不良により秋期および冬期の授業を欠席していた。2月上旬から回復傾向があり、復帰してプロジェクト研究の取りまとめに鋭意努力して研究発表と論文提出を行うことができ単位を取得した。
5	杉山 泰之	プロジェクト研究	課題名「ウンシュウミカン'青島温州'における片面交互結実処理が果実品質、樹体栄養、着花量に及ぼす影響について」 大学の重点研究、ふじのくにコンソーシアム共同研究に位置付け、収量、果実品質、樹体栄養、着花量を調査し、連年安定生産の可能性について検討した。
6	竹内 隆	プロジェクト研究	課題名「実生繁殖性イチゴ品種'はるひ'の高設栽培特性」 (株)ミヨシと共同研究契約を締結し、これに位置付けて種子繁殖性イチゴ品種'はるひ'の高設栽培特性を調査し、優良品種の選定と栽培法について考察した。
7	鶴飼 一博	プロジェクト研究	課題名「ジビエの認知度とジビエ料理の印象について」 プロジェクト研究が進むにつれ、学生のやる気がまし、調査方法や考察において自分の意見が出てくるようになってきた。 ジビエ料理を一般に普及するために、ジビエ料理の提供店及び通販レトルト品に対する味の評価を行った。
8	中根 健	プロジェクト研究	課題名「低日照条件下での補光が果実品質に及ぼす影響」 低日照条件下での補光等の栽培管理が果実品質に及ぼす影響について調査した。 補光により果実肥大は増加するが、外観品質、糖度に影響はなかった。 植付け間隔の増加は、果実肥大、外観品質、糖度に影響はなかった。 玉上の葉枚数は、果実肥大、外観品質に影響はなかったが、糖度が上昇した。
10	横田 茂永	プロジェクト研究	課題名「直売所出荷者に関する研究」 回収数は少なかったが経営規模、後継者の有無によって、現状維持と出荷拡大意向に二極化していることが想定された。2023年度は調査計画を再構成し、出荷者全体を対象を拡大して調査を実施する予定である。

11	渡邊 貴之	プロジェクト研究	課題名「ウシ体外胚生産における無血清培地の利用が胚の品質に及ぼす影響」 研究結果をJA静岡経済連の牛体外受精技術者に随時報告し、牛体外受精胚生産用培地を提供した。
12	青山 東一	プロジェクト研究	課題名「採卵鶏での陳皮利用について」 前年からミカンの皮の手配など準備段階から調査がスムーズに行えるように対応した。
13	池ヶ谷 篤	プロジェクト研究	課題名「加熱温度と時間がサツマイモのデンプンの糖化に及ぼす影響の解明とこれを活用した干し芋の新製法の開発」 JA静岡共済連の助成事業の研究助成を受けて実施した。本学が設置されている遠州地区への研究成果の波及を目指し、特産の干し芋の製法の改良に向け、低温での予備加熱によって糖度を高めた干し芋を製造するための基礎となる研究を行った。
14	五十右 薫	プロジェクト研究	課題名「葉欠き方法の違いがガーベラの切り花収量に及ぼす影響」 静岡県は日本一のガーベラ生産を誇るが、栽培管理の中で重要かつ所要時間を要する葉欠き作業は、1回の適正量や頻度を経験や他作業との兼ね合いで行われていることが多い。 このため、葉欠きを行う頻度や葉欠き量を変えて生産性の高い葉欠き方法を明らかにした。
15	坂口 良介	プロジェクト研究	課題名「トマト無培地循環養液栽培における2本仕立ての手法の違いが収量品質に及ぼす影響」 高糖度トマト栽培において、今後栽培指標を作成する上で重要な基礎データとなるため
16	瀬戸 隆弘	プロジェクト研究	課題名「直接法による、乳牛の乳房炎菌の薬剤感受性試験短縮法の検討」 学生が積極的に研究に従事したから、検体の菌数が少ない場合、判定が困難となるという結果となった。
17	星川 健史	プロジェクト研究	課題名「バックパック型LiDARを森林調査へ導入することは可能か？：進化するLiDAR技術の精度検証」 学生が就職後にも技術を活かしたいと意欲を持って取り組んでいたため、研究面、実務応用面を含めた総合的な学習を支援した。
18	増田 壽彦	プロジェクト研究	課題名「セスバニアによる土壌改善効果の確認」 新たな研究テーマと位置づけ、栽培作物だけでなく、土壌状態や連作による影響等も含めた広域的な影響について考察した。
19	山家 一哲	プロジェクト研究	課題名「タチバナ果皮に含まれるノビレチンは、栽培中のGP剤散布と収穫後の深紫外LED光照射によって増加する」(遠藤康太郎) 理由：静岡大学加藤教授との共同研究であり、学術的なインパクトも大きいため
20	吉村 親	プロジェクト研究	課題名「食農教育における幼児期の食や農の学びと影響」 食農保育を実践する保育園を調査対象に位置付け、子どもの食農保育活動への参与観察、アンケート調査(保護者、園の教職員)及び園長へのヒアリング調査を実施し、食農保育の活動が子どもの食農意識や発達、保護者や教職員の学習に及ぼす効果について考察した。
	#N/A	プロジェクト研究	

(2) 研究活動関係

研究活動成果

論文

No	氏名		論文名
1	稲葉善太郎	R4-P-1	武藤貴大・岩崎勇次郎・加藤智恵美・佐藤展之・稲葉善太郎・道園美弦. 高温期における夜間冷房が鉢物マーガレット類の開花・鉢物品質に及ぼす影響. 植物環境工学. 34(4)180-188. (査読あり)
1	稲葉善太郎	R4-P-2	松田 健太郎・石井 ちか子・稲葉 善太郎. 種子への湿潤低温処理によるオオシマザクラ, マメザクラおよび‘カワツザクラ’の増殖法と剪定枝を利用した休眠枝挿しによるオオシマザクラの増殖法. 植物環境工学. 34(1)21-29. (査読あり)
1	稲葉善太郎	R4-P-3	Hiroyuki Katsuoka1,* , Naoya Hamabe1, Chiemi Kato1, Susumu Hisamatsu1,Fuji Baba・Motohiro Taneishi・Toshiyuki Sasaki・Atsushi Ikegaya・Zentaro Inaba.Intergeneric hybridization of marguerite (<i>Argyranthemum frutescens</i> (L.) Sch. Bip.) and Roman chamomile (<i>Chamaemelum nobile</i> (L.) All.) using ovule culture and confirmation of hybridity. <i>Plant Biotechnology</i> 39, 93–100 (2022) (査読あり)
1	稲葉善太郎	R4-P-4	加藤智恵美・勝岡弘幸・馬場富二夫・稲葉善太郎. 赤色または遠赤色LEDの照射が切り花カーネーションの生育および開花に及ぼす影響. 園芸学研究. 22(1)35-44. (査読あり)
2	片山 信也	R4-P-1	ヤギ乳を使ったハードヨーグルトの試作(2023)東海畜産学会 33号13(査読なし)
2	片山 信也	R4-P-2	日本芝草学会2022年度秋季大会オンライン大会報告(2023)芝草研究51巻2号1-4(査読なし)
3	小林 信一	R3-P-1	小林信一、黒崎弘平、国産ロクジョウに関する国内生薬関連企業への調査結果、日本鹿研究No.13 17-19(査読なし)
4	近藤 晃	R4-P-1	近藤晃 (2022) 育苗時の灌水方法がスギコンテナ苗の成長と根鉢形成に及ぼす影響 底面給水と頭上灌水の比較、日本緑化工学会誌、48:144-147.(査読有)
11	渡邊 貴之	R4-P-1	Seizi Sukemori, Takayuki Watanabe, Satoshi Odo, 2022, Relationship between Serum L-Carnitine Levels and Sperm Parameters in Boars, <i>Open Journal of Animal Science</i> , 12, 360-365(査読あり)
11	渡邊 貴之	R4-P-2	祐森誠司、渡邊貴之、王堂哲、雄豚の血清中L-カルニチン濃度と精子性状との関係(研究論文紹介)(2022)、ビタミン96(12)(査読あり)
13	池ヶ谷 篤	R4-P-1	Katsuoka, H., Hamabe, N., Kato, C., Hisamatsu, S., Baba, F., Taneishi, M., Sasaki, T., Ikegaya, A. and Inaba, Z. (2022) Intergeneric hybridization of marguerite (<i>Argyranthemum frutescens</i> (L.) Sch. Bip.) and Roman chamomile (<i>Chamaemelum nobile</i> (L.) All.) using ovule culture and confirmation of hybridity. <i>Plant Biotechnol.</i> 39, 93-100. (Peer-reviewed).
13	池ヶ谷 篤	R4-P-2	Toyoizumi, T., Ikegaya, A. and Kosugi, T. (2022) Surface disinfection influences the antioxidant capacity and GABA content of saline treated brown rice (<i>Oryza sativa</i> L.). <i>Cereal Chem.</i> 99, 884-894. (Peer-reviewed).
13	池ヶ谷 篤	R4-P-3	Ikegaya, A., Nagafuji, A., Toyoizumi, T., Yamazaki, S., Saika, T. and Kosugi, T. (2022) Transportation via containers at ice temperature inhibits decay and maintains the quality of certain fresh produce. <i>CYTA. J. Food</i> 20, 285-296. (Peer-reviewed).
13	池ヶ谷 篤	R4-P-4	浜部直哉・馬場明子・宗野有雅・池ヶ谷篤・大場聖司・種石始弘・馬場富士夫・野田勝二(2023)近赤外分光法を用いた‘古山ニューサマー’の非破壊種子数予測、園芸学研究22(1):89-97. (査読あり)
16	瀬戸 隆弘	R4-P-1	大村学海・小熊亜津子・間間英之・赤松裕久・瀬戸隆弘 (2022) ホルスタイン種搾乳牛における健常乳房の超音波画像、家畜診療 69:343-348.(査読有り)
17	星川 健史	R4-P-1	Tsuchiya, B., Mochizuki, H., Hoshikawa, T. et al.(2023) <i>Landscape Ecol Eng.</i> 19. 169-177 (Peer-reviewed)

(2) 研究活動関係

研究活動成果

論文

No	氏名		論文名
1	稲葉善太郎	R4-P-1	武藤貴大・岩崎勇次郎・加藤智恵美・佐藤展之・稲葉善太郎・道園美弦. 高温期における夜間冷房が鉢物マーガレット類の開花・鉢物品質に及ぼす影響. 植物環境工学. 34(4)180-188.(査読あり)
17	星川 健史	R4-P-2	Ryodai Kato, Takehsi Hoshikawa, Takaaki Sugimoto, Shizuo Suzuki. (2023) Eco-Engineering. 35 (1). 25-32 (Peer-reviewed)
17	星川 健史	R4-P-3	窪田雪人, 星川健史, 小栗幹一, 鈴木静男 (2023) 沼津工業高等専門学校研究報告 57 7-10(査読有)
19	山家 一哲	R4-P-1	濱崎 櫻・山家 一哲・稲葉 迅・北谷 友梨佳・北村 陽・山本 梨沙・馬 剛・張 嵐翠・加藤 雅也. (2022). マルチ栽培がウンシュウミカンのフラバドのカロテノイド代謝関連遺伝子の発現に及ぼす影響. 園芸学研究21: 175-180.(査読有り)
19	山家 一哲	R4-P-2	山家一哲. (2022). 果樹生産における早期成園化とポストハーベスト. アグリフォーレ・レポート: 静岡県立農林環境専門職大学静岡県立農林環境専門職大学短期大学部紀要・年報. 2. 46-50
19	山家 一哲	R4-P-3	Yamaga, I. and Nakamura, S. (2022). Penicillium growth inhibition, fruit decay reduction, and polymethoxyflavones and scoparone induction in satsuma mandarin irradiated with ultraviolet-A light-emitting diodes. Scientia Horticulturae. 303 (Peer-reviewed)
19	山家 一哲	R4-P-4	Yamaga, I., Oshiro, A., Otsuki, T. and Araki, Y. (2022). 1-Methylcyclopropene maintains firmness and peel color and reduces decay area of artificially wounded fruits in mature Japanese pear (Pyrus pyrifolia Nakai 'Shizukisui'). Journal of Horticultural Research. 30 (Peer-reviewed)

(2) 研究活動関係

研究活動成果

著書

No	氏名		著書
11	渡邊 貴之	R4-B-1	祐森誠司、片山信也、小林信一、佐藤克昭、佐藤光夫、柴田昌利、瀬戸隆弘、渡邊貴之(2022)家畜飼養管理ハンドブック、第1版、日本畜産振興会(東京)、
11	渡邊 貴之	R4-B-2	渡邊貴之(2023)繁殖雌牛の飼養、代謝プロファイルテストの利用、国立研究開発法人 農業・食品産業総合研究機構編、日本飼養標準・肉用牛(2022年版)、公益社団法人 中央畜産会(東京)、89-91、214-215
16	瀬戸 隆弘	R4-B-1	祐森誠司、片山信也、小林信一、佐藤克昭、佐藤光夫、柴田昌利、瀬戸隆弘、渡邊貴之(2022)家畜飼養管理ハンドブック、第1版、日本畜産振興会(東京)、

(2) 研究活動関係
研究活動成果

特許・品種登録等			
No	氏名		特許
16	瀬戸 隆弘	R4-L-1	瀬戸隆弘・大村学海、特開2022-113244号「畜産牛体調判定装置、畜産牛体調判定方法、及び、畜産牛体調判定プログラム、並びに、機械学習装置」(静岡県)令和4年8月4日公知
16	瀬戸 隆弘	R4-L-2	瀬戸隆弘・大村学海、特開2023-014766号「体重推定装置、体向き判定装置、体部位画像生成装置、機械学習装置、推論装置、体重推定方法、及び、体重推定プログラム」(静岡県)令和5年1月31日公知

(2) 研究活動関係

研究活動成果

学会、研究会等における発表

No	氏名		学会発表
1	稲葉善太郎	R4-M-1	稲葉善太郎・柳下良美・加藤智恵美・地宗紀良・東浦 優、カーネーションの日没後昇温管理における施設内温度と採花本数との関係、園芸学研究21(別1)330.(千葉市、オンライン)2022.3.20.
1	稲葉善太郎	R4-M-2	稲葉善太郎・近藤聖也、挿し芽前の温度条件がマーガレットの開花に及ぼす影響、園芸学研究、21(別2)389.(鶴岡市、オンライン)2022.9.8.
1	稲葉善太郎	R4-M-3	稲葉善太郎・白井 葵・名越勇樹、異なる波長のLEDによる長日処理がカーネーションの生育・開花に及ぼす影響、園芸学研究22(別1).374. (滋賀県大津市、オンライン)2023.3.16.
2	片山 信也	R4-M-1	「ヤギ除草に期待される多面的効果とその課題」(2022.11.12)日本芝草学会静岡大会
2	片山 信也	R4-M-2	「ヤギ乳を使ったハードヨーグルトの試作」(2023)東海畜産学会(2022.12.8)web開催
3	小林 信一	R3-M-1	黒田貴綱・鶴飼一博・塩谷治彦・佐藤克昭・小林信一、富士山西麓牧草地におけるニホンジカの採食行動 - センサーカメラによる出現状況調査 - 東海畜産学会、オンライン、12月8日
5	杉山 泰之	R4-M-1	杉山泰之、安竹英晴、江本勇治、佐藤景子、山家一哲、森口卓哉、ウンシュウミカンの片面交互結実栽培法による超省力連年多収技術の開発-本栽培法導入時に焦点を当てて-、共同研究助成事業成果発表会、第8回、ふじのくに地域大学フォーラム、静岡、2023.2.12
5	杉山 泰之	R4-M-2	杉山泰之、安竹英晴、江本勇治、佐藤景子、山家一哲、森口卓哉、普通ウンシュウミカン「青島温州」における片面交互結実栽培が収量、果実品質に及ぼす影響、園芸学会、滋賀、2023.3.20
5	杉山 泰之	R4-M-3	佐藤景子、江本勇治、森口卓哉、杉山泰之、安竹英晴、片面交互結実栽培導入1-2年目における極早生、中生ウンシュウミカンの果実品質、収量への影響、園芸学会、滋賀、2023.3.16
5	杉山 泰之	R4-M-4	江本勇治、安竹英晴、佐藤景子、森口卓哉、杉山泰之、「青島温州」における片面交互結実栽培が樹体内貯蔵養分および無機成分含量に及ぼす影響、エンテイ学会、滋賀、2023.3.20
4	近藤 晃	R4-M-1	近藤晃(2023.3.26-27) 底面給水と頭上灌水がスギコンテナ苗の水使用と成長に及ぼす影響、第134回 日本森林学会大会、Web開催
7	鶴飼 一博	R4-M-1	黒田貴綱・鶴飼一博・塩谷治彦・佐藤克昭・小林信一、富士山西麓牧草地におけるニホンジカの採食行動 - センサーカメラによる出現状況調査 -、令和4年度東海畜産学会
11	渡邊 貴之	R4-M-1	瀬戸隆弘・鳥羽雄一・渡邊貴之(2022.9.16)三重県酪農場における、ホルスタイン種搾乳牛の各季節における反芻時間と牛側要因の関連性分析、日本畜産学会第130回大会、東京
13	池ヶ谷 篤	R4-M-1	池ヶ谷篤、豊泉友康、小杉徹、食経験が酸味の異なるイチゴジャムの嗜好性に及ぼす影響、日本調理科学会2022年度大会、兵庫県立大学、2022.9.3
13	池ヶ谷 篤	R4-M-2	小杉徹、豊泉友康、池ヶ谷篤、ジャガイモのGABAが増加しアクリルアミド原因物質が低減する前処理条件の解明、日本食品科学工学会令和5年度関東支部大会、実践女子大学、2023.3.11

(2) 研究活動関係

研究活動成果

学会、研究会等における発表

No	氏名		学会発表
1	稲葉善太郎	R4-M-1	稲葉善太郎・柳下良美・加藤智恵美・地宗紀良・東浦 優, カーネーションの日没後昇温管理における施設内温度と採花本数との関係, 園芸学研究21(別1)330. (千葉市、オンライン)2022.3.20.
13	池ヶ谷 篤	R4-M-3	山家一哲、井出昂太、池ヶ谷篤、溝添孝陽、1-MCPとMA包装の組み合わせがニホンナシ果実の鮮度保持と糖組成に及ぼす影響、園芸学会令和5年度春季大会、龍谷大学、2023.3.16
15	坂口 良介	R3-M-1	坂口良介・白井初季・荒川博 高糖度トマト養液栽培における2次育苗処理が収量及び品質に及ぼす影響、園芸学会2022秋季大会 オンライン、2022.9.8
16	瀬戸 隆弘	R4-M-1	瀬戸隆弘・鳥羽雄一、ホルスタイン種乳牛における暑熱と反芻時間、乳量との関連性及び反芻時間を用いた暑熱感受性牛早期発見法、第165回日本獣医学会 学術集会 オンライン開催2022.9.8
16	瀬戸 隆弘	R4-M-2	瀬戸隆弘・鳥羽雄一・渡邊貴之、三重県酪農場における、ホルスタイン種搾乳牛の各季節における反芻時間と牛側要因の関連性分析、日本畜産学会第130回大会 オンライン開催2022.9.16
17	星川 健史	R4-M-1	平岡裕一郎・星川健史・矢嶋準・原田丈也, UAV-LiDARからの樹幹形質推定手法の検討, 日本森林学会, オンライン, 2023.3.26
17	星川 健史	R4-M-2	Ryodai Kato, Takeshi Hoshikawa, Shizuo Suzuki. Forest trunk biomass estimation by airborne laser scanning. Proceedings of Laser Solutions for Space and the Earth 2022.4.20
19	山家 一哲	R4-M-1	山家一哲・吉川 碧・馬 剛・張 嵐翠・中田明里・中川佳音・光川早紀・加藤雅也、深紫外LED光がシクワシャー果皮のポリメトキシフラボノイド蓄積に及ぼす影響、園芸学会秋季大会、山形、2022.9.8
19	山家 一哲	R4-M-2	山家一哲・井出昂太・池ヶ谷篤・溝添孝陽、1-MCPとMA包装の組み合わせがニホンナシ果実の鮮度保持と糖組成に及ぼす影響、園芸学会春季大会、滋賀、2023.3.16
19	山家 一哲	R4-M-3	杉山泰之・安竹英晴・江本勇治・佐藤景子・山家一哲・森口卓哉(2023.3.20)、普通ウンシュウミカン‘青島温州’における片面交互結実栽培が収量、果実品質及び着花量に及ぼす影響、園芸学会春季大会、滋賀
19	山家 一哲	R4-M-4	杉山泰之、安竹英晴、江本勇治、佐藤景子、山家一哲、森口卓哉、ウンシュウミカンの片面交互結実栽培法による超省力連年多収技術の開発-本栽培法導入時に焦点を当てて-、共同研究助成事業成果発表会、第8回、ふじのくに地域大学フォーラム、静岡、2023.2.12

(2) 研究活動関係

研究活動成果

上記に該当しない研究活動成果(冊子に公表したもの)

No	氏名		研究活動成果
1	稲葉善太郎	R4-E-1	稲葉善太郎(2023)、令和3年度ジャパンフラワー強化プロジェクト推進事業、カーネーション環境制御生産技術実証事業報告書、
3	小林 信一	R4-E-1	小林信一(2022.6)、ヤギ皮の利用ー皮革の作り方と特徴、ヤギの友、No.46 73-78
3	小林 信一	R4-E-2	小林信一(2022.7)、日本の森林ー問題の深刻さと解決への道筋、再考、農村と都市をむすぶ、847:4-9
3	小林 信一	R4-E-3	小林信一(2022.8・9)、研究会 令和三年度 食料・農業・農村白書をめぐって、農村と都市をむすぶ、848:4-39
3	小林 信一	R4-E-4	小林信一(2022.8・9)、自給率あれこれー自給率に見る日本の危機、農村と都市をむすぶ 848:2-3
3	小林 信一	R4-E-5	小林信一(2022.10)、コロナ禍が畜産のフードシステムに与えた影響、畜産の情報 2-6
3	小林 信一	R4-E-6	小林信一(2022.11)、農学系学部・短大における農業者教育と専門職大学、農村と都市をむすぶ850:16-23
3	小林 信一	R4-E-7	小林信一(2022.12)、座談会 地理的表示保護制度をめぐって、農村と都市をむすぶ851:4-55
3	小林 信一	R4-E-8	小林信一(2023.1)、座談会 食料・農業・農村基本法の見直しをめぐって、農村と都市をむすぶ852:18-52
3	小林 信一	R4-E-9	小林信一(2023.2)、再生可能エネルギーと地域分散型エネルギーシステムの確立、農村と都市をむすぶ853:4-7
5	杉山 泰之	R4-E-1	杉山泰之(2022)柑橘の収穫後の樹勢回復について、柑橘、vol74(12) 10-13
7	鵜飼 一博	R4-E-1	鵜飼一博(2022)静岡県立農林環境専門職大学および短期大学部における林業コース、森林利用学会誌 37(2):117-119
10	横田 茂永	R4-E-1	横田茂永(2023)幅広い作目で就農支援、先進的経営発展と人材育成、品目特化型研修で就農支援『令和4年度農業人材確保推進事業 農業法人における独立就農者の育成・支援』一般社団法人全国農業会議所・全国新規就農相談センター、41-48、103-109、127-134
11	渡邊 貴之	R4-E-1	渡邊貴之(2022)代謝プロファイルテストにおける血液のサンプリング、臨床獣医4月号、緑書房(東京)、16-20
11	渡邊 貴之	R4-E-2	渡邊貴之(2022)牛の繁殖性向上のための飼養管理、家畜人工授精4月号、一般社団法人 日本家畜人工授精師協会(東京)、43-51
11	渡邊 貴之	R4-E-3	渡邊貴之(2022)、家畜生産技術向上への改善ポイント(酪農・肉用牛)令和4年度版、公益社団法人中央畜産会(東京)
16	瀬戸 隆弘	R4-E-1	瀬戸隆弘(2022)暑さに弱い牛を暑くなる前に予測できるのか、Dairy Japan 6:52-55

(2) 研究活動関係

研究活動成果

本学の教員研究のテーマと活動及び得られた成果の概要

No	氏名		研究活動成果
1	稲葉善太郎	R4-N-1	「鉢物用花き類における夏秋期の生育制御、開花調節技術の開発」 マーガレット親株の低温遭遇と挿し芽後の生育開花について検討し、低温遭遇の積算時間が増加すると開花時節数が減少し到花日数が短縮した。
1	稲葉善太郎	R4-N-2	「鉢物用花き類における夏秋期の生育制御、開花調節技術の開発」 ポインセチアへのジベレリン生合成阻害剤による草丈制御では灌注処理が簡易であることを明らかにした。
2	片山 信也	R4-N-1	「ヤギ乳製品に任意のヤギ香を付与する手法の検討」の研究内容を高度化 生産現場に提供。
3	小林 信一	R4-N-1	地域活性化のための地場産品を活用した畜産製品の開発・販売 鹿肉と鹿革を用いた製品の開発を行った。
4	近藤 晃	R4-N-1	「スギコンテナ苗の底面給水育苗法」が従来法(頭上灌水)と同等以上の育苗成績であることを明らかにした。
5	杉山 泰之	R4-N-1	「本学におけるGAP指導方法の確立」果樹専攻でGLOBALGAP認証を取得することで、認証取得に当たり注意すべき点が明らかになった。また、実際にリスク評価をさせることで、学生のGAPに対する意識向上が図れることが明らかになった。
5	杉山 泰之	R4-N-2	「カンキツ「はるみ」に発生する果皮障害の原因究明及びその防止対策の確立」GP剤(ジベレリン+ジャスモン酸)を11月に散布することで、果皮障害を軽減させることが明らかになった。
6	竹内 隆	R4-N-1	「イチゴ栽培技術の可視化による教育効果に関する研究」模擬果実を作成し、10玉規格、15玉規格のパック詰め練習を行い、練習前と練習後の時間と精度の比較をし検討したところ、本模擬果実は、パック詰め練習に有効であると考えられた。
7	鶴飼 一博	R4-N-1	(教員研究費)「適切な植生管理と国土保全に関する調査研究」これまでの防鹿柵の維持管理やその効果から、静岡県に新タイプを提案し採用された。
7	鶴飼 一博	R4-N-2	(重点研究費)業界が期待する人材および学生の進路希望の把握と比較 - ホワイト企業 障がい者雇用 農福連携をキーワードとして -
8	中根 健	R4-N-1	低日照条件下での補光が果実品質の及ぼす影響 温室メロンでは、冬期の曇天、長雨など日射量が少ない条件が重なると、著しい果実品質の低下をもたらす。そこで、栽培条件を変えて果実の品質向上効果について検討した。 株の葉数を増やすことにより、果実の品質(外観、糖度)を向上することが出来た。 補光による品質向上効果は小さかった。
10	横田 茂永	R4-N-2	「環境保全的かつ連帯的フードシステムに関する研究」消費者Webアンケートを実施した結果、有機食品の消費者は、有機食品にこだわって購入しているヘビーユーザー層、無農薬等の食品(特別栽培農産物等)にこだわって購入しているミドルユーザー層、国産にこだわって購入しているライトユーザー層の三層構造に分類され、ヘビーユーザー層ほど、産消提携にも強い嗜好を持つことがわかった。
11	渡邊 貴之	R4-N-1	「黒毛和種供胚牛の採胚成績を高位安定させるための研究」 採胚成績のうち黄体数と抗ミュラー管ホルモンおよびビタミンAが関連することが示唆された。

(2) 研究活動関係

研究活動成果

本学の教員研究のテーマと活動及び得られた成果の概要

No	氏名		研究活動成果
1	稲葉善太郎	R4-N-1	「鉢物用花き類における夏秋期の生育制御、開花調節技術の開発」 マーガレット親株の低温遭遇と挿し芽後の生育開花について検討し、低温遭遇の積算時間が増加すると開花時節数が減少し到花日数が短縮した。
12	青山 東一	R4-N-1	「鶏ふん施用による低コスト水稻栽培の実証2」鶏糞を元肥として、水稻栽培に取り組んだ。
13	池ヶ谷 篤	R4-N-1	「グルコマンナンの活用による高齢者が食べやすい高含水パンの開発」において、生のこんにゃく芋を加工し、アクと悪臭を除去したこんにゃくペーストを加えた高含水パンの製法を確立した。高含水パンは通常パンには40%程度しか含まれていない水分を60%以上含んでいる。
14	五十右 薫	R4-N-1	「バラの切花形質に及ぼす切花時期の影響」をテーマに調査を行い、2～6月の切花形質はほぼ変化が無く、土耕栽培では採花しない夏期の高温環境により最大花弁が小さくなることで蕾が小型化してボリュームが低下することが判明した。
15	坂口 良介	R4-N-1	「トマトの養液栽培における生理障害対策」について検討を行い、今年度は仕立て法について検討を行った。 今年度は2本仕立ての手法について検討を行い、第4葉上で摘心を行い、第2葉の摘葉を行うことで、良好な結果が得られることがわかった。
16	瀬戸 隆弘	R4-N-1	「直接培養法による乳牛乳房炎の検査時間短縮の検討」 2020年度実施した試験では良好な成績が得られたが、今年度の試験では、検体の菌数が少ない場合、結果が安定しないという結果になってしまった
17	星川 健史	R4-N-1	「UAV-LiDARデータを用いた樹種判別に関する研究」 秋葉山県営林において産業用無人ヘリコプターを用いて取得したLiDARデータを用い、区画単位での樹種判別手法を開発した。全体精度はランダムフォレストで84.8%、勾配ブースティング決定木86.5%だった。
18	増田 壽彦	R4-N-1	「セスバニア（マメ科）栽培による土壌耕盤等の改善効果について」 本校E圃場における土壌貫入抵抗値は25cm以下で2,500kps以上となる場所が確認された。土壌耕盤を破砕する目的にいて、セスバニア（マメ科）作物を栽培し、土壌表面の雑草抑制効果は確認されたが、土壌耕盤を十分に破砕できる効果は認められなかった。
19	山家 一哲		「1-MCPがニホンナシ果実の抗酸化活性等に及ぼす影響の解明」 1-MCP処理により'喜水'果実の硬度が保持され、SOD活性が高く維持されることがわかった。1-MCP処理は果実のフルクトース増加及びソルビトール減少を抑制する傾向にあることも併せて示唆された。
20	吉村 親	R4-N-1	「農業・農村体験学習に関する研究」において、農業の教育旅行等の調査を行い、農業・農村体験が農業理解、食意識の形成及び農村地域の振興に有効であることがわかった。

(2) 研究活動関係

国内外の大学・研究機関・企業との共同研究

No	氏名	内容
1	稲葉善太郎	花き生産供給力強化協議会(事務局:日本花き生産協会)「切り花用カーネーションへのLED照射による高収益・高品質化技術の開発実証」の研究テーマを提案し、公募により神奈川県、静岡県(静岡農林研伊豆農業研究センター)、愛知県(愛知県農業総合試験場)、兵庫県(兵庫県淡路農業技術センター)の研究機関を選定し、座長として委託試験を実施
	稲葉善太郎	「不織布ポットの花苗生産と植栽後の生育評価」日清紡テキスタイル
5	杉山 泰之	「ミカンの鮮度保持フィルムによる長期貯蔵試験」住友ベークライト
5	杉山 泰之	「ミカンの鮮度保持フィルムの貯蔵中の湿度変化に対するモイスファインの影響調査」日本エクスラン工業株式会社
6	竹内 隆	実生繁殖性イチゴの品種および栽培特性(令和4年4月1日～令和5年2月10日) (株)ミヨシ
6	竹内 隆	イチゴの育苗培土が生育・収量に及ぼす影響(令和4年4月1日～令和5年2月10日) (株)ヤードウエスト
15	坂口 良介	「養液栽培におけるウルトラファインバブルの活用」日邦産業株式会社
16	瀬戸 隆弘	「3D画像を用いた乳牛の体重推定」静岡県畜産技術研究所、株式会社テクノサイト
17	星川 健史	「森林上空からの立木幹形状計測のための点群処理手法と樹種判別に関する研究」ヤマハ発動機(共同研究)1,317千円ヤマハ発動機(共同研究)
19	山家 一哲	ノピレチン高含有カンキツにおけるフラボノイド代謝経路の解析と機能性成分増加技術の開発(2021.8-2023.3) 静岡大学農学部
19	山家 一哲	個包装鮮度保持フィルム(P-プラス)がニホンナシの貯蔵後の果実品質に及ぼす影響(2022.7-2023.2)住友ベークライト株式会社

(2) 研究活動関係

国内外の大学・研究機関との学術交流

No	氏名	内容
19	山家 一哲	静岡大学客員准教授 2020.4.1 -
13	池ヶ谷 篤	静岡県立大学客員共同研究員 2020.4.1 -

(2) 研究活動関係

研究活動における地域との連携

No	氏名	内容
2	片山 信也	粗飼料価格高騰に対応した自給飼料生産基盤の拡充にかかる相談対応(県中西部・3件)
7	鵜飼 一博	白山における高山植物保護に関する研究(N P O 法人白山の自然を考える会)
15	坂口 良介	工場副産肥料の利活用に関する研究 株式会社TF-METAL
17	星川 健史	無人航空機LiDARを用いた災害リスク評価に関する研究(磐田市)
17	星川 健史	無人航空機LiDARを用いた森林計測に関する研究(天竜林業の未来創造会議)

(2) 研究活動関係

企業・農業団体・研究機関等からの受託研究

No	氏名	内容
7	鵜飼 一博	課題名：静岡県産材を有効活用した超薄厚エレメント木質ボードの開発 研究テーマ：静岡県産材を有効活用した超薄厚エレメント木質ボードの開発における原材料供給に関する調査及び研究 研究機関： 令和2年度～4年度
19	山家 一哲	光触媒装置を用いた青果物鮮度保持効果の検証 (2022.7-2023.2) 株式会社浜松パルス

(2) 研究活動関係

科学研究費補助金の申請・採択

No	氏名	内容
10	横田 茂永	基盤研究(C) (一般) 公益財団法人レイ・パストゥール医学研究センター「農地再生メカニズムとそこに潜むアントレプレナーシップの多様性に関する研究」共同研究者
11	渡邊 貴之	・科学研究費補助金(基盤研究B)「和牛の臍帯炎をモデルとした感染症の遺伝的感受性因子の特定と遺伝子型に基づいた対策」(2023-2025)研究経費19,700千円(総額)共同研究者
13	池ヶ谷 篤	・科学研究費補助金(若手研究)「果実の「多汁感」が食味と嗜好性に及ぼす影響の解明」(2022-2024)研究経費4,550千円(総額)。
19	山家 一哲	科学研究費補助金(若手研究)「カンキツ貯蔵病害軽減に寄与するジベレリンとプロヒドロジャスモンの役割解明」(2022-2024)研究経費4,680千円(総額)

(2) 研究活動関係

科学研究費補助金以外の公的競争的外部資金の申請・採択

No	氏名	内容
5	杉山泰之 森口卓哉 山家一哲	ふじのくに地域・大学コンソーシアム共同研究助成事業「ウンシュウミカンの片面交互結実栽培法による超省力連年多収技術の開発 本 栽培法導入時に焦点を当てて 」(2021 - 2022)、研究経費250千円

(2) 研究活動関係

各種民間団体の研究助成金の申請・採択

No	氏名	内容
5	杉山 泰之	静岡県信用農業協同組合連合会担い手育成支援事業「トマト生産農場のGAP導入及び認証取得による経営改善」研究経費 10万円
7	鵜飼 一博	静岡県信用農業協同組合連合会担い手育成支援事業「ヤマモモの色別糖度分布と利用に関する研究」研究経費 10万円
7	鵜飼 一博	静岡県信用農業協同組合連合会担い手育成支援事業「ジビエの認知度及びジビエ料理の印象に関する研究」研究経費 10万円
13	池ヶ谷 篤	静岡県信用農業協同組合連合会担い手育成支援事業「加熱温度と時間がサツマイモのデンプンの糖化に及ぼす影響の解明とこれを活用した干し芋の新製法の開発」研究経費 10万円
13	池ヶ谷 篤	公益財団法人飯島藤十郎記念食品科学振興財団2021年度学術研究助成「高齢者のパン食における食塊形成を支援するスプレッド状素材の開発」2022年4月-2023年3月、研究経費1,500千円
13	池ヶ谷 篤	公益財団法人エリザベス・アーノルド富士財団令和5年度学術研究助成「パン生地への油脂の添加が口腔内で形成される食塊の物性に与える影響の解明」2022申請、研究経費1,000千円
16	瀬戸 隆弘	武田科学振興財団2022年度ライフサイエンス研究助成(共同)「行動モニタリングとディープラーニングを用いた牛の未来予測技術の開発」2022-2026、不採択
19	山家 一哲	静岡県信用農業協同組合連合会担い手育成支援事業「GP剤の連続処理とエチレン処理がキンカン生産に与える影響」研究経費 10万円

(2) 研究活動関係
学会賞等の受賞

No	氏名	内容
16	瀬戸 隆弘	「ホルスタイン種乳牛における暑熱と反芻時間、乳量との関連性及び反芻時間を用いた暑熱感受性牛早期発見法」全国農業共済協会 令和4年「家畜診療賞」

(2) 研究活動関係

研究成果についての報道等

No	氏名	内容
1	稲葉善太郎	農林環境専門職大研究成果など紹介 . 中日新聞 (2023.1.14.)
15	坂口良介	廃水恵みの肥料に 静岡新聞 (2023.3.7)
19	山家一哲	温州ミカンの隔年結果 春先気温変動が影響 日本農業新聞(2023.3.22)

(3) 地域連携・地域貢献活動関係

学識経験者としての学外の委員会や協議会等への参画状況

No	氏名	内容
1	稲葉善太郎	・わさび振興方針検討会議(事務局:静岡市役所農業政策課)、座長、R5.2.14.静岡市産わさびの振興計画をもとに、生産、流通、販売面から活動計画を検討。
1	稲葉善太郎	・花き生産供給力強化協議会が実施する「カーネーション環境制御生産技術実証事業」座長の委嘱を受け、12県25人の生産者で実施する実証試験の現地指導や取り纏めおよび産地への助言指導を行っている。R4年度は会議年間12回、現地指導26回実施。
3	小林 信一	静岡県畜産技術研究所研究アドバイザーとして、7月1日、1月24日(オンライン)に研究課題等に対する助言を行った。
3	小林 信一	農水省鳥獣対策優良活動表彰審査委員会委員長として、12月19日に審査会を行い、受賞作品を選出した。
3	小林 信一	日本中央競馬会畜産振興事業評価委員会委員として、7月29日、9月12日、11月30日に畜産振興事業の事後評価についての意見及び評価報告書の内容確認を行った。
3	小林 信一	乳の学術連合「乳の社会文化ネットワーク」幹事(一般社団法人Jミルク)として、6月24日、8月31日、2月9日に会議をオンラインで行い、学術奨励金の審査他、活動に関する研究指導と専門的知見から意見を述べた。
3	小林 信一	JA畜産経営継承支援事業全国審査委員会委員として、1月27日(オンライン)にJA畜産経営継承支援事業申請の審査を行った。
3	小林 信一	第40回全農酪農経営体験発表会および第16回全農学生「酪農の夢」コンクールにおける審査委員長として、6月23日、7月20日、26日、8月23日、9月1日、2日、16日、28日、29日、10月18日に審査会、現地審査会を行い、11月25日に発表会を実施し、選賞および発表会での講評を行った。
3	小林 信一	JA全国専門畜産経営診断士資格認証委員会委員として、7月22日、9月20日に会議、8月24,25日に講習会を実施した。
3	小林 信一	関東酪農教育ファーム推進委員(関東生乳販売農業協同組合連合会)として、5月31日、3月28日にオンラインで会議を行い、酪農教育ファーム活動の関東地域での円滑な推進および発展を図るため意見を述べた。
3	小林 信一	社会福祉法人藤沢育成会評議員として、6月17日(金)、3月24日(土)に評議員会で、議決権のある事項に関する協議、議決を行った。

(3) 地域連携・地域貢献活動関係

学識経験者としての学外の委員会や協議会等への参画状況

No	氏名	内容
3	小林 信一	全農林月刊「農村と都市をむすぶ」誌の編集のため、毎月時間外にオンラインでの編集委員会に参加した。
4	近藤 晃	静岡県林業労働力の確保の促進に関する基本計画の策定に係る検討会、委員、静岡県経済産業部 森林・林業局林業振興、2023年2月2日、静岡市、県基本計画に関する助言
6	竹内 隆	静岡県学校農業クラブ連盟各種発表県大会審査 ・分野 類「開発・保全・創造」の区分で6月22日に審査を行った。
6	竹内 隆	AOIプロジェクト技術シーズ活用型事業化促進事業審査委員 ・3月9日にオンライン審査会に出席、委員として継続事業審査を実施した。
7	鵜飼 一博	南アルプス学会(委員)
7	鵜飼 一博	静岡県中央新幹線幹環境保全連絡会議(委員)
10	横田 茂永	静岡県農業における有機等環境負荷低減の在り方検討会(第1回令和4年8月3日 静岡県庁別館、第2回令和4年10月12日 静岡県庁別館)
10	横田 茂永	令和4年度農業人材確保推進事業推進委員会(第1回令和4年9月7日、オンライン参加、第2回令和5年3月6日、主婦会館プラザエフ)
11	渡邊 貴之	肉用牛振興基金協会、令和4年度畜産・酪農生産力強化対策事業における繁殖性等向上対策事業に係る第1回合同検討会、Web、2022.9.28、事業推進に対する助言
11	渡邊 貴之	肉用牛振興基金協会、令和4年度畜産・酪農生産力強化対策事業における繁殖性等向上対策事業に係る現地調査、愛知県新城市、2022.12.6、現地農家に対する助言
11	渡邊 貴之	中央畜産会、令和4年度家畜生産性向上対策事業第2回 家畜生産性向上対策検討委員会、Web、2022.12.21、事業に対する助言
11	渡邊 貴之	北里大学、ICTと放牧の融合による持続的肉用牛生産事業に係る推進委員会委員(JRA研究事業)、八戸市、2023.3.10、研究に対する助言
20	吉村 親	森町ツーリズム研究会森町でつながる推進部会、森町、令和3年度から継続。アドバイザーとして参画、地域資源を活用したグリーンツーリズムの展開や地域活性化等の取組、町内農産物を活用した商品開発、販売戦略の検討、実践に関する助言を行った。

(3) 地域連携・地域貢献活動関係
 学会運営への参画状況

No	氏名	内容
1	稲葉善太郎	(一社) 園芸学会 . 理事.代議員.学会活性化担当理事 (AHC2023.園芸学会百周年記念事業担当) .R4.4 ~ R5.3で会議10回 (うち対面2回) .
2	片山 信也	日本芝草学会2022年度秋季大会オンライン大会 大会委員長
2	片山 信也	東海畜産学会 会報編集・大会運営役員
3	小林 信一	畜産経営経済研究会会長として、月例会の企画を行い実施した。また、「畜産経営経済研究」No.20の編集を行った。
3	小林 信一	酪農乳業史研究会副会長・編集長として、「酪農乳業史研究」No.19 の編集と発行を行った。
3	小林 信一	全日本鹿協会事務局長・編集委員として、「日本鹿研究」No.13の編集と発行を行った。
10	横田 茂永	日本農業経済学会 (理事、2020年度より継続)
10	横田 茂永	共生社会システム学会 (編集委員、2021年12月より継続、理事、2022年度より)
10	横田 茂永	日本有機農業学会 (副編集委員長・理事、2022年1月より)
11	渡邊 貴之	日本胚移植技術研究会、技術普及理事、Web、研究会会員への研修会資料提供、Web、2022.2.3

(3) 地域連携・地域貢献活動関係

公開講座、研修会、セミナー等への講師等としての参画状況

No	氏名	開催日	内容
1	稲葉善太郎	2022.5.13	カーネーション環境制御について、花き生産供給力強化協議会令和3年度活動報告および令和4年度事業説明会。(オンライン)
1	稲葉善太郎	2022.9.14	環境制御技術の実証で日本のカーネーションを元気に、兵庫県若手カーネーション若手経営者連絡会、兵庫県淡路市
1	稲葉善太郎	2022.9.21	環境制御技術の実証で日本のカーネーションを元気に、長崎県環境制御研修会、長崎県諫早市
1	稲葉善太郎	2022.9.27	静岡県立農林環境専門職大学主催 令和4年度アグリ実践大学 演題「植物生理の基礎知識」 場所: 静岡県立農林環境専門職大学、参加者15人
1	稲葉善太郎	2022.10.20	環境制御技術の実証で日本のカーネーションを元気に、日本花き生産協会カーネーション部会研修会。(オンライン)
1	稲葉善太郎	2022.11.24	農業経営士会花き部会研修会、静岡県立農林環境専門職大学短期大学の概要、磐田市(農林技術研究所資料館)、2022.11.24.
1	稲葉善太郎	2023.1.14	マーガレットの魅力と多様な品種による産地育成、アグリフォーレサイエンスカフェ、磐田市
1	稲葉善太郎	2023.2.16	カーネーション環境制御技術の展開による収益性向上、日本花き生産協会カーネーション部会研修会、2023.2.16。(オンライン)
1	稲葉善太郎	2023.3.17	カーネーション環境制御技術の展開による収益性向上、花き生産供給力強化協議会令和4年度活動報告会、2023.3.17。(オンライン)
3	小林 信一	2022.5.29	湘南アップサイクルフェスタ(鎌倉)において、シカについての講演を行った。
3	小林 信一	2022.7.27	ふじのくにNPO活動支援センター主催講演会で「害獣を宝に！富士宮シカ利活用プロジェクト」について講演した。於：静岡県男女共同参画センターあざれあ
3	小林 信一	2022.8.6	富士宮市ふもとっぱら主催「学びの森」にて、鹿について講演した。
3	小林 信一	2022.8.24-25	全中主催「畜産経営診断士講習会」において講師としての講義・演習を担当した。
3	小林 信一	2022.8.30	農政ジャーナリストの会にて日本型畜産の在り方について、講演を行った。
5	杉山 泰之	2023.2.16	令和4年度西部柑橘技術者冬期研修会、JA静岡県経済連、場所：本学、講師、「土づくり、肥料の基本、草生栽培」、16名、
7	鶴飼 一博	2022.5.15	日本高山植物保護協会 2022年第1回zoom講演会「南アルプスにおける高山植物保護活動」
7	鶴飼 一博	2022.9.3	環境省中部地方環境事務所白山自然保護官事務所 白山パークボランティア研修会「ニホンジカによる高山帯への影響」
7	鶴飼 一博	2023.3.4	日本高山植物保護協会静岡支部 サイエンスカフェ「南アルプスにおける高山植物保全の最前線」
10	横田 茂永	2022-2023	日本食品工業会 食品に関する勉強会(食品流通・消費)2022～2024年度用オンデマンド資料提供
10	横田 茂永	2022.6.4	信州大学 信州フードスペシャリスト育成プログラム講師(食品と環境2)、2022年6月4日オンライン開催、長野県内食品会社社員等23人
11	渡邊 貴之	2022.6.28	農林水産省主催、中央畜産研修「肉用牛生産技術指導者養成1」、家畜改良センター中央畜産施設(福島県白河市)、2022.6.28
11	渡邊 貴之	2022.8.24-26	静岡県主催、静岡県家畜人工授精師講習会、農林環境専門職大学、2022.8.24
11	渡邊 貴之	2022.10.20	畜産技術協会主催、黒毛和種繁殖牛の代謝プロファイルテストおよび超音波画像装置技術研修会、畜産技術研究所、2022.10.20
11	渡邊 貴之	2022.12.9	独立行政法人家畜改良センター熊本牧場主催、代謝プロファイルテストを活用した肉用牛繁殖雌牛の飼養管理技術講習会、熊本県玉名市、2022.12.9
11	渡邊 貴之	2022.12.13	NOSAI福岡主催、令和4年度 福岡県三者共催獣医師講習会、福岡県福岡市、2022.12.13
11	渡邊 貴之	2023.2.8	中央畜産会主催、令和4年度畜産・酪農生産力強化対策事業に係る現地講習会(Web)、2023.2.8
13	池ヶ谷 篤	2022.11.15	静岡県立農林環境専門職大学主催 令和4年度アグリ実践大学 演題「収穫後生理・貯蔵流通の基礎知識」 場所: 静岡県立農林環境専門職大学、参加者15人
15	坂口 良介	2022.12.7	静岡県肥料商組合野菜改善研修会 演題「夏期高温期におけるトマトの栽培管理」(静岡県肥料商組合主催 男女共同参画センターあざれあ 27名参加)
15	坂口 良介	2022.12.20	JA遠州夢咲アグリセミナー 演題「植物の生理について」 JA遠州夢咲主催 学内開催 参加者10名
16	瀬戸 隆弘	2022.10.20	公益社団法人 畜産技術協会主催「黒毛和種繁殖牛の代謝プロファイルテストおよび超音波画像装置技術研修会」場所: 静岡県畜産技術研究所、講師補助
17	星川 健史	2022.6.23	スマート林業の新たな可能性を拓くUAVレーザ計測最新技術セミナー、ヤマハ発動機株式会社、UAVレーザ計測の最近の研究成果と今後の方向性、300名
17	星川 健史	2022.12.8	令和4年度AOIフォーラム会員視察バスツアー、アグリオープンイノベーション機構、A201、画像・点群データの農林業への利用、30名
17	星川 健史	2023.2.17	令和4年度第2回天竜林業の未来創造会議、天竜農林局、北遠総合庁舎、無人航空機レーザ計測による森林資源解析、2023.2.17、30名
17	星川 健史	2023.2.19	名勝指定100周年記念令和4年度松原フォーラム、静岡市、静岡市三保松原文化創造センター、サーマルカメラ搭載ドローンによる松枯れ調査、50名

17	星川 健史	2023.3.1	森林デジタルデータ「VIRTUAL SHIZUOKA」をみんなで活用するための勉強会、中遠農林事務所、情報処理室、14名
20	吉村 親	2022.6.8	令和4年度静岡県グリーンツーリズム協会通常総会、演題「農林業の担い手育成における大学と地域連携の構築に向けて」、場所：静岡総合庁舎7階会議室第9会議室、参加者約40名
20	吉村 親	2022.11.29	AOIフォーラム会員視察バスツアー、研究・教育紹介「農業・農村体験における相互学習」、場所：静岡県立農林環境専門職大学、参加者約25名

(3) 地域連携・地域貢献活動関係

自治体、学校、施設、住民団体等への助言や指導

No	氏名	開催日	内容
17	星川 健史	2022.9.20	県庁森林整備課、東部農林事務所に対して、デジタルデータを活用するための森林調査法について指導した。
17	星川 健史	2022.6.10	磐田市役所に対して、微地形表現図を使った現地調査について助言した。
20	吉村 親	2022.4.3	磐田市岩田地区における地域づくりの推進方策、岩田故郷の会
20	吉村 親	2022.4.8	保育園における食農教育の推進方策、千羽すびか保育園
20	吉村 親	2022.4.25	森町における移住及び地域づくりの推進方策、森町移住コーディネーター、森町地域おこし協力隊、森町定住推進課
20	吉村 親	2022.5.11	浜松市北区引佐町における地域づくりの推進方策、白檀棚田会、浜松市農地整備課、西部農林事務所農村整備課
20	吉村 親	2022.5.31	保育園における食農保育の推進方策、連理の木の下保育園れんりの子
20	吉村 親	2022.6.1	掛川市における地域づくりの推進方策、掛川市(広報・シティプロモーション課、生涯学習協働推進課、農林課)
20	吉村 親	2022.6.10	浜松市におけるグリーン・ツーリズムの推進方策、静岡県グリーン・ツーリズム協会西部支部(はままつフルーツ時之栖)
20	吉村 親	2022.6.17	小学校と地域が協働して行う食農教育の推進方策、岩田小学校、岩田故郷の会
20	吉村 親	2022.6.20	志太榛原地区におけるグリーン・ツーリズムの推進方策(主に農家民宿)、静岡県グリーン・ツーリズム協会志太榛原支部(NPO法人かわねライフ)
20	吉村 親	2022.6.23	中部地区におけるグリーン・ツーリズムの推進方策(主に農産物加工)、静岡県グリーン・ツーリズム協会中部支部(NPO法人複合力)
20	吉村 親	2022.6.29	磐田市における地域づくりの推進方策、磐田市農林水産課
20	吉村 親	2022.8.3	島田市における地域づくりの推進方策、合同会社くれば、島田市山村都市交流センターささま
20	吉村 親	2022.8.4~6	岩手県雫石町におけるグリーン・ツーリズムの推進方策、雫石町グリーン・ツーリズム推進協議会、雫石町観光商工課
20	吉村 親	2022.8.8	ふじのくに美しく品格のある邑ワンストップ窓口(西部)の推進方策、NPO法人地域づくりサポートネット
20	吉村 親	2022.8.24	静岡県における食育、地域づくり(邑)及び地域おこし協力隊の推進方策、静岡県(農地保全課、健康増進課、企画政策課)
20	吉村 親	2022.10.27	浜松市における移住施策及び地域おこし協力隊の推進方策、浜松市市民協働・地域政策課
20	吉村 親	2022.11.7	森町における移住施策及び地域おこし協力隊の推進方策、森町定住推進課
20	吉村 親	2022.11.22	農家による消費者との交流イベントの推進方策、MzFarm
20	吉村 親	2022.12.1	都道府県農泊ネットワーク会議の設立について、静岡県観光政策課
20	吉村 親	2022.12.11	静岡県における新規就農の推進方策、静岡県農業ビジネス課、公益社団法人静岡県農業振興公社
20	吉村 親	2022.12.11	静岡県における集落営農の推進方策、静岡県農業ビジネス課
20	吉村 親	2023.1.11	浜松市における新規就農の推進方策、浜松市農業振興課、西部農林事務所生産振興課
20	吉村 親	2023.1.15	静岡県における移住及び新規就農の推進方策、静岡県移住相談センター

(3) 地域連携・地域貢献活動関係

小中高生を対象とした出前講座等への講師等としての参画状況

No	氏名	開催日	内容
4	近藤 晃	2022.7.19	県立川根高校 1・2年生出前講座 テーマ「持続可能な開発目標(SDGs)に貢献する森林・林業」参加人数2人
6	竹内 隆	2022.8.6	オープンキャンパスにおける模擬授業(イチゴの話あれこれ)を講義した(高校生80人参加)
7	鵜飼 一博	2022.8.10	富士市森の仕事見学会(高校生6人参加)
7	鵜飼一博	2022.8.20	オープンキャンパスにおける模擬授業(森林を測る)を講義した。(高校生80人参加)
12	青山 東一	2023.1.23	藤枝北高のガイダンスに参加し、生徒5名に対して、畜産の概要及び農林環境専門職大学の概要について講義した。

(3) 地域連携・地域貢献活動関係
研究成果が商品化された製品等

No	氏名	内容
13	池ヶ谷 篤	こんにゃくアイスクリーム、水見色きらく市企業組合(地域特産のこんにゃく芋を用いたアイスクリーム)

(3) 地域連携・地域貢献活動関係
 その他の地域連携・地域貢献活動

No	氏名	活動日	内容
3	小林 信一	-	NPO馬頭農村塾(栃木県)による耕作放棄地再生と新規就農者受け入れ活動。
3	小林 信一	2022.10.8~16	全日本鹿協会(事務局:農専大)による熱海市でのシカ展の開催。
7	鵜飼 一博	2022.8.26 -8.28	南信州山岳文化伝統の会に対し、光岳周辺におけるニホンジカの被害とその対策を現地で指導した。
7	鵜飼 一博	2022.9.9 -9.11	南信州山岳文化伝統の会に対し、聖平周辺におけるニホンジカの被害と防鹿柵の維持修繕方法を現地で指導した。
20	吉村 親	2022.4.27~11.15	森町ツーリズム研究会森町でつながる推進部会、2022.4.27~11.15の期間で合計4回
20	吉村 親	2022.9.5~2023.3.7	農山村デザイン演習に係るフィールドワーク、森町(天方)、2022.9.5~2023.3.7の期間で合計6回
20	吉村 親	2022.9.6~2.23.3.7	農山村デザイン演習に係るフィールドワーク、掛川市(倉真)、2022.9.6~2.23.3.7の期間で合計6回
20	吉村 親	2022.9.12~2023.3.8	農山村デザイン演習に係るフィールドワーク、磐田市(岩田)、2022.9.12~2023.3.8の期間で合計6回
20	吉村 親	2022.9.13~2023.3.8	農山村デザイン演習に係るフィールドワーク、浜松市(引佐町)、2022.9.13~2023.3.8の期間で合計6回
20	吉村 親	2022.12.14	浜松市ユニバーサル農業研究会
20	吉村 親	2023.3.10	令和4年度農山村デザイン演習報告会、静岡県立農林環境専門職大学

(3) 地域連携・地域貢献活動関係

地域連携・地域貢献活動についての報道

No	氏名	報道日	内容
7	鵜飼 一博	2023.1.5	南ア・光岳の高山植物 シカ食害で激減(信濃毎日新聞)
20	吉村 親	2022.9.7	農山村地域の課題解決へ農林業を学ぶ大学生が掛川で調査、NHKニュースたっぷり静岡
20	吉村 親	2022.9.7	農山村の課題分析へ掛川で農林環境専門職大まちづくりや森林活動、静岡新聞朝刊
20	吉村 親	2022.9.8	農林環境専門職大生が掛川滞在して学ぶ、中日新聞朝刊
20	吉村 親	2021.10.15	果樹の育て方について地域住民と意見交換、広報もりまち令和4年10月



1 授業科目の概要

授業科目名	プロジェクト研究	科目コード	配当年次	単位
		JTH56901J	2年	2
担当教員	(短期大学部) 全教員			

(1) 「プロジェクト研究」の概要

本科目はいわゆる「卒論」であり、本学における学修の集大成として位置づけられ、これまでの本学での学修成果を土台に、学生各自が指導教員と設定した研究テーマ（課題）に対して主体的に学修・研究を進め、成果物（成果発表、論文）を完成させる授業科目です。通年で2単位であることから最低限60コマの履修時間が必要であり、週1コマで2年次通年の授業となります。コースや実習専攻により時間割が異なるため、時間割には記載せず、指導教員と日程や時間調整を行って実施します。本科目は定められた履修時間以外の空き時間等も有効に利用して、各自が責任をもって栽培・飼育等を行うことで調査データを取得します。ここが他の科目とプロジェクト研究との大きな違いになります。

研究テーマは、生産現場を想定した問題解決に関連したものであれば、領域、目的、手法は問いません。最終成果物は、別に定める論文の形式で提出します。また、学科全体としてのプロジェクト研究発表会を実施します。

本科目は1年間（実質は11か月）という限られた期間で栽培、飼育等をし、調査研究を進め、規定（本文10,000字以上 概ねA4版×10～12枚程度）の成果物としてまとめるため、調査研究中だけでなく、開始前の情報収集や綿密な研究計画等をしっかりと行う必要があります。

実施計画書の作成に際しては、指導教員や実習担当教員と十分相談し、試験場所も含めて調整してください。

また、事前の準備として、文章の書き方や論文のまとめ方を理解しておく必要があります。参考文献を、下記に示しました。

- 1) 『レポート・論文の書き方入門』河野哲也、慶応大学出版会、2002年
- 2) 『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書、2009年
- 3) 『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』石黒圭、日本実業出版会、2013年

(2) 到達目標

これまでの学習成果の総まとめとして、与えられた課題を解決する能力の習得を目標としています。本科目での研究活動を通して、自ら進んで学修・研究することの意義、自ら論文を仕上げた達成感、学問研究と「思い入れ」に対する「探究心」の重要性についての理解等を深めます。

本科目は、本学における学習の集大成です。本学の卒業生として十分な評価を受けるに値する論文を作成してください。

2 受講期間とスケジュール

(1) 受講期間

開講時期	2021年4月
受講期間	12か月(実質11か月程度)

(2) スケジュール

月	2~3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
年間スケジュール	←→ テーマ設定 ↓ 指導教員決定	←→ 研究計画策定		栽培飼育等・調査				データ整理		まとめ	←→ 発表原稿 ↓ 発表原稿 ↑ 発表原稿	発表会	←→ 論文提出 ↓ 論文提出 ↑ 論文提出

3 研究活動について

(1) 研究テーマ

「プロジェクト研究」は、農林業の生産現場におけるリーダーとしての資質を身に付けるため、現状の課題をみつけ、それを解決し、説明するという、一連の活動を通して、課題解決能力を身に付けるものです。

1年次の圃場実習等の学修を通して得た知識・技術・経験をもとに、取り組みたいテーマを考えます。短大では、20名の教員が分担して学生の指導にあたります。それぞれの教員の専門分野及び各教員が学生に勧めたいテーマを、5指導教員一覧（表2、別添）に示します。

(2) テーマと指導教員の決定

基本的には、学生自らがテーマを考えます。担任(実習担任)とテーマについて相談しながら、テーマの守備範囲にある指導教員が指導します。また、テーマを設定するにあたり、その周辺について既存の知見を知っておく必要があります。過去の研究成果等を実習担当教員や指導教員の指導を受けながら調べ、自分の研究テーマを決めることが重要です。ただし、本学の教育内容と大きく異なったテーマは実施できません。また、指導教員については、テーマが教員の専門分野である限りにおいては、極力、学生の希望を優先しますが、一部の教員への過度な集中やテーマの内容により調整する必要があるなど、学生の希望に添えない場合があります。

(3) 研究計画の作成

テーマが決定したら、研究の具体的な実施計画を作成します。指導教員に相談しながら、圃場試験の規模、調査方法を明確にします。また、学生は実習担当教員にも計画書を提出し、圃場の利用や管理方法等を相談する必要があります。研究計画を作成するときには、当然、具体的な試験規模や圃場マップの設計も必要となります。このとき、論文や発表会にて最終的にどのような図表を示していくのか等を想定して研究計画を設計することが重要です。

(4) 研究の実施

コースや実習専攻、あるいはテーマにより、実施の時期、方法は様々です。指導教員や実習教員と十分相談しながら進めます。

4 成果の発表と評価

「プロジェクト研究」の単位は、後述する 取り組み姿勢、 発表審査、 論文審査によって評価します。

(1) 発表会

発表会は令和4年2月中旬（2/16,17,22）を予定し、学科全体で実施します。発表会は別に定める規程により実施し、学科長から指名された短大教員は規程に基づき個々の評価をします。

< 発表会の進め方 >

- 1) 発表時間は10分とし、質疑応答時間を5分とする。
- 2) 発表はPowerPointで行う。
- 3) 目的、材料および方法、結果、考察の順序で、論文の構成に沿ってプレゼンする。
- 4) 発表会にはプレゼンの他、発表要旨（A4版両面1枚、図表含む）を作成し配布する。

(2) 論文

論文は令和4年2月末を提出〆切とします。指導教員は論文審査をします。別に定める規定により評価します。

< プロジェクト研究論文作成要領 >

- 1)用紙はA4判とし、1頁当たり字数は1行40字、30行とする。
- 2)上下余白25mm、左右余白25mm、フォントサイズ明朝体10.5ptとする。
- 3)頁番号は下部中央に記載する。
- 4)作成要領は園芸学会の「園芸学研究」に準拠する。
- 5)原則としてWordを利用し、プリントアウトとする。
- 6)完成頁数は、表紙・目次を除いて10頁（含図表等）以上を目安とする。
- 7)表紙には、提出年度、静岡県農林環境専門職大学短期大学部卒業論文、テーマ、学科・コース名、学籍番号、氏名、指導教員名を記入する。
- 8)提出の際、「発表要旨」もいっしょに綴じこむ。

< 評価基準等 >

- (1) 評価の視点は、本学部の教育研究の目的と学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の能力とする。
（ 修得した専門知識と技術を駆使して栽培、林業、畜産の各分野の生産現場における課題を探求し、解決に必要な情報を収集・整理する手法を理解している。 ）
- (2) プロジェクト研究では、共同による作成を認めない。なお、同一の研究目的・対象・方法による共同研究の場合は、学生各自が独自のテーマを設定し、重複しない内容にしなければならない。
- (3) プロジェクト研究の評価基準は、表1（別表1）及び以下のとおりとする。

1) 取り組み姿勢(配分30点)。

プロジェクト研究に供する60コマ分の日程・時間及び研究状況等を指導教員と連絡調整し、逐次指導を仰ぐなど、自発的・計画的にプロジェクト研究に取り組んでいるか。

2) 発表評価(配分30点)。

発表時間、発表態度、発表方法、発表内容、質疑応答は良いか。

3) 論文評価(配分40点)。

テーマの設定が適切に行われているか、目的・材料及び方法が適切に明示されているか、先行研究の検討が十分に行われているか、引用や注記が適切に行われているか、プロジェクト研究論文作成要領を満たしているか、論証の過程や研究結果（図表含む）が明快で論理性が認められるか、要旨の内容が適切であるか。

表1 プロジェクト研究の評価基準

評価指標	評価基準					評価比率 (%)
	期待している以上 (5)	十分に満足できる (4)	やや努力を要する (3)	努力を要する (2)	相当の努力を要する (1)	
(取り組み姿勢) プロジェクト研究の意義を理解し、問題解決能力を高めるために自発的・計画的に取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を十分理解し、自発的・計画的及び積極的にしっかり取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を理解し、自発的・計画的に取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を理解し、指導を得て概ね自発的・計画的に取り組むことができる。	プロジェクト研究の意義を理解できるが、指導を得ても自発的・計画的に取り組むことができない。	プロジェクト研究の意義が理解できず、指導を得ても自発的・計画的に取り組むことができない。	30
(発表評価) プレゼンテーションの手法を理解し、実行できる。	プレゼンテーションの手法を理解し、作成・発表および質疑応答・議論することが十分できる。	プレゼンテーションの手法を理解し、作成・発表および質疑応答することができる。	プレゼンテーションの手法を理解し、作成・発表することができる。	プレゼンテーションの手法を理解するが、ソフトを使用して明解に発表することができない。	プレゼンテーションの手法が理解できず、ソフトを使用した発表ができない。	30
(論文評価) 課題の目的、材料と方法、結果及び考察について、論理的に成果をとりまとめることができる。	テーマの設定、目的、方法、図表、結果及び考察をしっかりと明示し、論理的にまとめることができる。論文としての価値が高い。	テーマの設定、目的、方法、図表、結果及び考察を明示し、論理的にまとめることができる。	テーマの設定、目的、方法、図表、結果及び考察を明示し、まとめることができる。	目的、方法、図表、結果及び考察を明示することができるが、成果をまとめることができない。	目的、方法、結果、考察が明示できず、成果をまとめることができない。	40

< 評点等 >

- (1) 各評価指標の結果を総合してS(100~90点)、A(89~80点)、B(79~70点)、C(69~60点)、D(59点以下)の評定をもって判定し、S、A、B、C、を合格とする。
- (2) 届出手続き、期間などの条件を満たさない場合は、不合格とする。
- (3) 他人の論文や作品の無断使用が認められた場合は、不合格とする。
- (4) 指導教員は、プロジェクト研究の評価を採点提出締切日まで提出しなければならない。
- (5) 指導教員が認めた場合、審査の途中で、学生に対して修正を求めることができるものとするが、採点提出締切日は遵守しなければならない。

なお、学生は、プロジェクト研究の開始時に「プロジェクト研究ルーブリック」(別表1)を理解し、指導教員によるフィードバックを受けながら、研究に取り組む際の指標とする。指導教員はプロジェクト研究の実施過程において発表や論文を指導する際に記入し、到達度を学生に逐次フィードバックする。

< 表彰 >

- (1) 発表評価等に基づき、優秀賞を教務委員会で選考し、教授会に提案し決定する。
- (2) 総数で、6名まで表彰できるものとする(最優秀賞1名、優秀賞5名)。
- (3) 最優秀賞と優秀賞には、賞状と副賞(図書カード等)を贈呈する。
- (4) 表彰は、卒業式に行うものとする。

プロジェクト研究 ルーブリック

学籍番号

(学生)氏名

記入日(学生)

(教員)氏名

記入日(教員)

学生はプロジェクト研究の開始時にルーブリックを理解し、指導教員によるフィードバックを受けながら、研究に取り組む際の指標とする。
指導教員はプロジェクト研究の実施過程において発表や論文を指導する際に記入し、到達度を学生に逐次フィードバックするために用いる。

区分	評価項目	評価					自己評価	教員評価	評価(点)
		期待している以上 (5)	十分に満足できる (4)	やや努力を要する (3)	努力を要する (2)	相当の努力を要する (1)			
取組	コミュニケーション (10)	教員や学生間で常に気持ちの良い挨拶ができ、教員との報告・連絡・相談を恒常的にやっている。	教員や学生間で気持ちの良い挨拶ができ、教員との報告・連絡・相談をよく行っている。	教員や学生間で挨拶ができ、教員との報告・連絡・相談を行うことができる。	教員や学生間で挨拶をし、教員との報告・連絡・相談を行うよう努力すべきである。	教員や学生間で挨拶ができず、教員との報告・連絡・相談が行えない。			30
	活動 (10)	活動日・時間を守りながら、集中して計画的に取り組んでいる。	活動日・時間を守りながら、よく取り組んでいる。	活動日・時間を守りながら、取り組んでいる。	活動日・時間を守っていないことがある。	活動日・時間を守っていない。			
	ディスカッション (10)	指導教員と有意義な議論をいつも行うことができる。	指導教員との議論をよく行える。	指導教員との議論を時々行える。	指導教員と議論を適切に行えない場合がある。	指導教員と議論することができない。			
発表	話し方 (5)	十分に明瞭な言葉を使って丁寧に説明しながら、熱意が伝わるなどのアピールがある。	ある程度明瞭な言葉を使い、丁寧に説明している。	一部に不明瞭な説明がある/もう少し丁寧に説明する必要がある。	説明が不明瞭である/説明の仕方改善の余地が大きい。	説明が不明瞭である/説明の仕方理解していない。			30
	スライド (5)	提示するデータや文字を注意深く選択し、ポイントが大変わかりやすい。	提示するデータや文字が適切で、ポイントを理解できる。	提示するデータや文字がおおよそ適切で、ポイントをおおよそ理解できる。	一部のデータや文字を見直して、ポイントが理解できるように改善する必要がある。	提示するデータや文字を全体的に見直して、ポイントが理解できるようにする必要がある。			
	時間 (5)	指定された時間に合わせて、発表時間を柔軟に調整できている。	指定された時間で発表を終えている。	おおよそ指定された時間を守ろうとしているが、若干ずれている。	指定された時間を守るために、スライド量の調整や発表練習が必要	指定された時間が全く守られていない。			
	成果の提示 (5)	研究の成果を十分に説明し、その価値を良くアピールしている。	研究の成果と価値をよく説明できている。	研究の成果と価値をおおよそ説明できている。	研究の成果と価値の説明に不十分な部分がある。	研究の成果と価値の説明の仕方ができていない。			
	論理性と客観性 (5)	発表のテーマと流れが明確である。説明を論理的に展開し、説得力がある。	発表のテーマと流れを把握でき、論理的な説明を行っている。	発表のテーマと流れは把握できる。説明が論理的になるように若干工夫が必要である。	発表のテーマを明確にする必要がある。説明が論理的になるように修正が必要である。	発表のテーマが不明確/説明の論理性ができていない。			
	質疑応答 (5)	質問内容を理解し、適切な回答と議論が十分にできる。	質問内容を理解し、適切な回答ができる。	質問内容を理解し、回答をすることができる。	質問内容は理解できるが、回答内容が不十分である。	質問内容を理解できない/回答できない。			
論文	誤字・脱字 (5)	十分に良く推敲されていて、たいへん読みやすい文章である。	推敲されていて、読みやすい文章である。	誤字・脱字はないが、一部に修正したほうが良い字句がある。	誤字・脱字があり、著者による推敲が必要である。	誤字・脱字がたいへん多く、著者による大幅な推敲が必要である。			40
	要約 (5)	背景・目的・結果・結論を全て含み概要を十分理解できる。	背景・目的・結果・結論を全て含み全体像を把握できる。	背景・目的・結果・結論を全て含むが全体像が若干把握できない。	背景・目的・結果・結論のいずれかが欠けている。	要約が無い/「背景と目的」や「結論」と同じ文章である。			
	背景と目的 (5)	背景/目的を参考文献を挙げながら、合理的にわかりやすく説明している。	背景/目的の説明を参考文献を挙げながら、説明している。	背景/目的の説明を参考文献を挙げながら、ある程度行っている。	背景/目的の説明が不十分である。参考文献を参照していない。	背景/目的の記述が無い。			
	研究手法 (5)	研究の手法をわかりやすく記述し、目的達成のための道筋が明らかになっている。	研究の手法をわかりやすく記述し、全体像と詳細まで示している。	研究の手法を記述し、全体像と詳細まで示している。	研究の手法の記述が不十分であり、全体像/詳細が不明である。	研究の手法の説明が無い。			
	図表と結果 (5)	読者が理解しやすいように工夫され、本文で十分に説明している。	読者が理解できる図表で、本文でよく説明している。	読者が理解できる図表で、本文である程度説明している。	表現・体裁に問題がある。本文の説明が不十分である。	図表に誤りがある。			
	データの考察 (5)	データに対する深い考察を行い、文献を引用して発展的に議論し、「目的」を十分達成している。	データに対する考察を行い、文献を引用して議論し、「目的」をある程度達成している。	データに対する考察を行い、「目的」をある程度達成している。	データに対する考察を行っているが、目的を達成するには不十分である。	データに対する考察が無い。			
	結論と今後の課題 (5)	得られたことを漏れなく良くまとめ、「目的」に対応した結果を発展的に述べている。	得られたことを漏れなくまとめ、「目的」に対応した結果をよく示している。	得られたことを漏れなくまとめ、「目的」に対応した結果を示している。	得られたことを全てまとめていない/「目的」に対応した結果になっていない。	結論が記述されていない。			
	引用文献 (5)	論文の論旨を組み立てるために十分な量の参考文献を挙げて適切に参照している。	十分な量の参考文献を挙げてよく参照している。	参考文献の体裁は正しく、本文での参照方法は適切である。	参考文献の体裁や、本文・図表での参照方法が不十分である。	参考文献が不足している。本文・図表で参照していない。			

表

教員テーマ一覧

各項目複数記載可

NO	職名 氏名	専門分野	キ-ワード	勤めたいテーマ	備考(研究場所等)
1	教授 竹内 隆	イチゴの栽培	イチゴ、品種、土耕栽培、高設(養液)栽培、環境制御	品種間差異、栽培特性、養液管理技術、ハウス環境管理等、イチゴの品種特性を発揮させる栽培法の改善や開発に関すること	学内ハウス(C3、C4、D5)
2	教授 片山信也	畜産学、獣医衛生	畜産環境、動物行動	「牛衡機(体重計)の試作と評価」「畜舎の暑熱対策と評価」等 その他 希望があれば要相談	学内実習用畜舎など
3	教授 小林信一	畜産経営、野生鳥獣管理・利用	新規就農、ヤギ、シカ	「畜産分野の新規就農」「シカの資源的活用法」「ヤギの利活用について」	富士宮、島田、藤枝など
4	教授 稲葉善太郎	花き類の育種、生育・開花制御	花き、交配、遺伝、開花制御、LED、種苗生産	・マーガレットの交配組合せと形質の遺伝性 ・キク科植物の温度前歴と開花反応 ・LEDを利用した可視光波長制御による生育、開花制御技術開発 ・植物体内ジベリン制御による生育、開花反応 ・新たな生産資材を活用した苗生産における環境負荷軽減対策	学内ハウス(C5、C6、D2、D6)、一部学外施設等
5	教授 近藤晃	育苗・施業技術	コンテナ苗、施業技術、環境教育	コンテナ苗・初期保育等、林業研究グループ・森林教育等、林業遺産、野鳥目録	育苗等は学内、その他は学外の関係団体等で自ら調査
6	教授 杉山泰之	果樹の栽培・栄養診断 GAP	果樹、栄養診断、ミカン、はるみ、リンゴ、片面結実、GAP	実家の果樹園の栄養・土壌診断、GAP認証の取得、ミカン・はるみの片面結実栽培、日焼け果の発生原因の解明、リンゴの静岡県における生育特性、カンキツの経済栽培の北限調査	学内又は場外の圃場
7	准教授 中根健	メロンの栽培	メロン、品種、隔離ベッド栽培、環境制御	品種間差異、栽培特性(肥培管理)、局所環境制御、玉やけ果の発生原因の解明、生育診断等、環境にやさしいメロンの栽培法の改善や開発に関すること	学内温室(A1,3,4,5,7,8,9,10)
8	准教授 中野敬之	茶・栽培	近日公開予定！		
9	准教授 横田茂永	農業経営	有機農業、新規参入、食品の消費と流通	食品の消費動向に関する消費者へのアンケート調査、農産物直売所等生産者へのアンケート調査	Web調査で学内で実施できる場合もありますが、アンケートやフィールドワークで学外に行ってもらったことがあります。
10	准教授 鷓飼一博	森林計画	間伐	間伐実施箇所の評価(本数間伐率と林冠の空隙率の関係について)	都田演習林ほか
			防鹿柵	ドローンによる防鹿柵の点検方法の検討	富士市有林ほか
		特用林産	原木しいたけ栽培	袋掛けによる巨大化について	校内ホダ場。調査期間は2～4月。

NO	職名 氏名	専門分野	キ - ワード	勤めたいテーマ	備考(研究場所等)
11	准教授 渡邊貴之	肉用牛の繁殖	超音波画像装置(エコー)、体外受精(IVP)、代謝プロファイルテスト(MPT)	超早期妊娠診断、無血清培地による牛体外受精胚生産、MPTを用いた牛群の栄養診断	エコーおよびMPT:浜松、IVP:学内実験室
12	講師 五十右薫	切花栽培	切花栽培(バラ、トルコギキョウ、ガーベラ等)	バラの仕立方法と生育 ガーベラ苗の初期管理と生育 トルコギキョウの作型別品種特性、二度切り栽培 規格外切花の有効利用	学内温室・ハウス・圃場(C2・D6、露地)、実習室
13	講師 増田壽彦	やさいの栽培	露地栽培、パイプハウス栽培	レタスの施肥削減技術、マルチムギによる雑草抑制、緑肥作物等による土壌変化、スイートコーンの成熟と糖度	学内圃場(E1、D4、D8、D9ハウス、露地) 校外圃場(1か所)
14	講師 青山東一	畜産	食肉の流通・野生獣肉の利活用	中小家畜(豚・鶏)の食肉流通調査、野生獣肉(鹿)の利活用	学内、学外(フィールドワーク)
15	講師 吉村親	農村社会	食農教育、都市農村交流、新規就農、農業と福祉	食農体験の教育効果、都市農村交流による地域づくり、新規参入による新規就農、農福連携	学内、学外(フィールドワーク)
16	講師 坂口良介	トマトの栽培	トマト 品種 隔離土耕栽培 養液栽培 高糖度トマト 生育診断	高糖度トマトや隔離土耕トマトの栽培管理手法、肥培管理等、栽培技術や生育診断に関する研究	学内ハウス(C1、C7、D3)
17	講師 山家一哲	果樹の栽培、鮮度保持	ミカン、ナシ、イチジク、ユズ、シークワーサー、キンカン、ブドウ	ナシの新たな鮮度保持技術開発 ジベレリンとジャスモン酸によるキンカンの大玉化 LEDによるミカン樹の早期育成 イチジクの新たな腐敗抑制技術開発 儲かる果樹複合経営の指標づくり 他	果樹圃場・温室、C棟3階実験室、
18	講師 星川健史	森林計測	経営、木材、ドローン、遠隔探査(リモセン)、資源量、作業分析	ドローンを使って森林を計測する、チェーンソー作業をビデオ分析して効率化のヒントを得る、カーボンクレジットを林業経営への取り入れ方を考える	学外での調査は1回程度、パソコンでの分析多め。
19	講師 池ヶ谷篤	食品の分析・加工、青果物貯蔵	糖、有機酸、テクスチャー、新商品開発	高齢者が食べやすい農産加工品の開発、イチゴや果実などの成分分析、冷凍野菜・果実の品質向上に関する研究	実験室や加工室で実施します。
20	講師 瀬戸隆弘	乳牛の行動からの疾病予測	牛の反芻、牛の行動量、乳房炎、IT、乳成分と外貌モニタリング	牛の反芻または行動時間からの、乳房炎を再発しやすい牛の発見法の開発 Googleのサービスを使った、スマホで入力しやすい、二度打ち(紙PC)不要の簡単な台帳の作成 バルク乳成分と外貌モニタリングによる、牛群診断	グラフや数字を読む作業が主です スマホアプリ開発です、プログラミングはしませんが(ノーコード)、簡単な数式は組みます 週1(期間は相談)で、学外協力農場で、一人でモニタリングしてもらいます

開催要項

キャリアサポート講演会 「幸せな職場で働くために - 障がい者が働くホワイト企業を例に - 」

内容

本学は開学3年目を迎え、短期大学部2期生は就職活動中、生産環境経営学部(4大)1期生も年度末から就職活動開始となる。しかしながら、日本初の農業系専門職大学という事情から、就職活動においては期待も不安も大きい。このような状況で、キャリアサポートが重要となるが、単に就職率を上げるだけではなく、学生の幸福に繋がる“良い”企業(ホワイト企業)等への就職を支援することも求められる。そこで、まずは学生にホワイト企業を目指す意識を持たせることが第一歩と考え、講演会を開催することとした。本講演会では、ホワイト企業の条件の一つである「社員を大切にしている企業(または農福連携)」をキーワードに、数名の講師にご登壇いただく。

開催日程 2022年8月22日(月)13:30 ~ 16:00

場所 静岡県立農林環境専門職大学(磐田市富丘678-1)A416視聴覚室、A201講義室

タイムスケジュール

13:30 ~ 13:40 (10分)	開会の挨拶 鈴木 滋彦 学長
13:40 ~ 14:40 (60分)	講演 「人を大切にする企業に就職しよう・人を大切にする経営者になろう」 坂本 光司 氏 人を大切にする経営学会会長
14:40 ~ 14:50 (10分)	休憩(机の移動)
14:50 ~ 15:50 (60分; 質疑応答含める)	パネルディスカッション 「農福連携の現場で求められる人材について」 坂本 光司 氏 人を大切にする経営学会会長 根上 豊子 氏 社会福祉法人 ステップ・ワン 理事長 鈴木 厚志 氏 京丸園株式会社 代表取締役 菊池 宏之 氏 静岡県立農林環境専門職大学 教授
15:50 ~ 16:00 (10分)	閉会の挨拶 片山 信也 キャリアサポート委員長

問い合わせ先

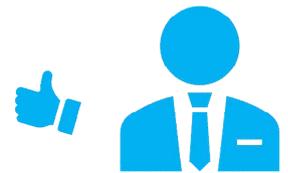
太田 智 (おた さとし)

静岡県立農林環境専門職大学 農福連携推進研究室(果樹) 講師

TEL: 0538-31-7994

E-mail: ohta.satoshi@spua.ac.jp

キャリアサポート講演会



“幸せな職場で働くために”

8月22日(月)
13:30~16:00

A416視聴覚室

第1部 講演会

「人を大切にする会社に就職しよう
・人を大切にする経営者になろう」

人を大切にする経営学会 会長 坂本光司 氏

日本でいちばん大切にしたい会社(全7巻)の著書で有名な先生を招き、社員を大切にする会社に就職するためのお話を伺います。

第2部 パネルディスカッション

「農福連携の現場で求められる人材について」

人を大切にする経営学会 会長 坂本光司 氏
京丸園株式会社 代表取締役 鈴木厚志 氏
社会福祉法人ステップ・ワン 理事長 根上豊子 氏
静岡県立農林環境専門職大学 教授 菊池宏之 氏

近年注目を浴びている農福連携を行う農業法人や社会福祉法人において、専門職大学の卒業生に期待することや、学生時代に身につけたい能力等について議論します。

【対象】全学部、全学年

【申込み&問合せ】太田 智 (ohta.satoshi@spua.ac.jp) C307号室

令和4年6月30日

甲 磐田市富丘 678 番地の 1
静岡県立農林環境専門職大学

学長 鈴木滋彦

乙 富士市永田町 1 丁目 100 番地
富士市

市長 小長井義正

丙 富士市大淵 6979 番地の 5
富士市森林組合

代表理事組合長 渡井正孝

富士市有林を核とした人材育成に係る協定書

富士市有林を核とした人材育成に係る協定書

静岡県立農林環境専門職大学及び短期大学部（以下「甲」という。）と富士市（以下「乙」という。）と富士市森林組合（以下「丙」という。）は、次のとおり富士市有林を核とした人材育成に係る協定を締結する。

（協定の目的）

第1条 この協定では、乙が所有し、丙が管理する森林を甲、乙、丙の人材育成及び教育活動等に活用するため、必要な事項を定めるものとする。

（協定の対象とする森林）

第2条 この協定で対象とする森林（以下「協定森林」という。）は、乙が所有し、丙が管理する全ての森林とする。

（活動の内容）

第3条 協定森林で実施する活動内容は、次のとおりとする。

- 1 人材育成及び教育活動
 - (1) 伐採・植林・下刈等の森林整備実習
 - (2) 森林及び森林整備等の見学
 - (3) 森林の調査及び資料の採集
 - (4) その他、甲、乙、丙が認めるもの
- 2 上記活動で実施する個別案件に関しては、甲、乙、丙が協議の上、決定するものとし、必要に応じて覚書等を定めることができる。

（協定の期間）

第4条 この協定の期間は、協定締結日から令和7年6月30日までとする。

- 2 甲、乙、丙は、期間満了後も引き続き協定を維持しようとする時には、期間満了までに、甲、乙、丙の協議の上、改めて所要の手続きをとるものとする。
- 3 この協定の目的を達成した場合、又は協定の存続が困難になった場合には、甲、乙、丙の協議の上、協定期間を変更できるものとする。なお、本協定を解除するにあたっては、6ヶ月間の予告期間において申し出るものとする。

（甲の努め）

- 第5条 甲は、第3条に掲げた活動を実施する場合は、事前に活動内容を乙、丙に通知するものとする。
- 2 甲は、年度計画を乙、丙に提出するものとする。
 - 3 甲は、前項の活動を実施した後、乙、丙に成果を報告する機会を設けるものとする。
 - 4 甲は、乙、丙がこの協定に基づく人材育成及び教育活動等を適切に実施できるよう協力するものとする。

（乙の努め）

- 第6条 乙は、甲、丙に対し協定の範囲内で協定森林の使用を認めるものとする。
- 2 乙は、第3条に掲げた活動を実施する場合は、事前に活動内容を甲、丙に通知するものとする。
 - 3 乙は、前項の活動を実施した後、甲、丙に成果を報告する機会を設けるものとする。
 - 4 乙は、甲、丙がこの協定に基づく人材育成及び教育活動等を適切に実施できるよう、協力するものとする。

（丙の努め）

- 第7条 丙は、甲、乙に対し協定の範囲内で協定森林の森林整備等の見学を認めるものとする。
- 2 丙は、第3条に掲げた活動を実施する場合は、事前に活動内容を甲、乙に通知するものとする。
 - 3 丙は、前項の活動を実施した後、甲、乙に成果を報告する機会を設けるものとする。
 - 4 丙は、甲、乙がこの協定に基づく人材育成及び教育活動等を適切に実施できるよう、協力するものとする。

（責任の制限）

- 第8条 この協定において甲が乙、丙に対して負う責任の範囲は、甲の責に帰すべき事由により発生した通常かつ直接の損害に限られるものとする。
- 2 この協定において乙、丙が甲に対して負う責任の範囲は、乙、丙の責に帰すべき事由により発生した通常かつ直接の損害に限られるものとする。

（財産等の権利）

第9条 この協定において甲が植栽した植物の所有権は、乙に帰属するものとする。

（その他の事項）

第10条 この協定の履行に必要な事項であって、本協定に定めのないもの及び協定の事項に疑義が生じたときは、甲、乙、丙が協議して定めるものとする。

この協定の証として、この証書を3通作成し、甲、乙、丙それぞれ記名押印の上、各自その1通を保有する。